

第40号

2011.5

本郷学園同窓会誌

# 銀友



—— 総会のお知らせ ——

日時 2011年6月18日(土) 15:00より  
場所 本郷学園会議室

<http://本郷学園同窓会.jp> & <http://www.hongo-gd.net>

写真:六義園のしだれ桜  
<新澤米次さん(高校8年生)撮影>

## 学園より教育振興資金へのご寄付のお願い

本郷学園同窓会の皆様には、日頃学園をご支援いただき心から感謝いたします。お蔭様で中学、高校とも、外部の皆様方から教育内容の充実した学校として年々、より高い評価を戴いております。

今後とも、建学以来の教育理念に則って社会有為の人材を育てるべく、学園あげて取り組む所存でございますので、ご支援の程、宜しく願い申し上げます。

学校の教育内容充実、施設整備などの用途を目的に寄付金を在校生の保護者、卒業生の皆様ほか個人、法人を問わず幅広く募集しておりますので、ご案内申し上げます。学校法人への寄付金は非課税扱いになっております。趣旨にご賛同いただきましたうえでご協力賜りますよう宜しく願い申し上げます。

(なお、本学園では従来から入学に際し保護者の皆様へのご寄付のお願いは特に致しておりません。)

### ●お申し込み方法

①学園事務室に寄付の申込書をご請求ください。

学校法人 本郷学園

〒170-0003 豊島区駒込4-11-1

電話 03-3917-1456

ファックス 03-3917-0007 担当 中津川(事務長)

②申込書に所定事項をご記入の上、事務所へご提出ください。

③指定の銀行振込口座にご入金ください。

④入金確認後、「振込金受領書」並びに

「特定公益増進法人であることの証明書」(写し)を郵送いたします。

### ●税法上の寄付金控除

私立学校への寄付金は特定公益増進法人に対する寄付金として確定申告により所得税から控除されます。

なお、寄付金控除額は控除対象団体等への年間支払い寄付金の総額(年間総所得の40%以内)から2千円を差し引いた額になります。

「銀友」第40号  
目次

Index

- p2 本郷学園同窓会会長あいさつ  
南谷修 高校8回生(1956年〓昭和31年〓卒業)
- p4 学校法人本郷学園理事長あいさつ  
松平頼武
- p5 投稿  
●「私の中時代」  
宮本良一  
中学20回生(1947年〓昭和22年〓卒業)

- 「松平頼武理事長の叙勲を祝う」  
本郷中学校・高等学校副校長 宮沢正喜  
高校18回生(1966年〓昭和41年〓卒業)
- 「現役時代の思い出―そして今、カナダライフ」  
鈴木伸久  
高校20回生(1968年〓昭和43年〓卒業)
- 「第90回全国高校ラグビー大会 観戦記」  
本郷中学校・高等学校教諭 遠藤千秋  
高校33回生(1981年〓昭和56年〓卒業)
- p16 情報ボックス
- p18 同期の輪  
「成人の集い」ほか

- p26 OB会便り
- p30 本郷学園同窓会会則
- p32 2011年度事業計画・予算案
- p34 2010年度事業・決算報告
- p36 2010年度表彰記録
- p37 2010年度定期総会報告  
小室能広 高校8回生(1956年〓昭和31年〓卒業)
- p38 2010年度本郷祭報告  
市倉洋一 高校12回生(1960年〓昭和35年〓卒業)
- p39 本郷学園同窓会役員一覧
- p40 学園便り
- p41 ●「本郷珍妙教授譚」  
池田貴生 高校57回生(2005年〓平成17年〓卒業)
- p42 本郷学園同窓会会費納入者一覧
- p49 計報・編集後記



本郷学園同窓会  
会長

南谷 修

高校8回生

1956年(昭和31年)卒業

3月11日に発生した「東日本大震災」は広範囲であり、マグニチュード9.0という、今までにない大きさの震源エネルギーであり、しかも近いところでの海底のため、予想をはるかに超える津波が発生し、二重災害となり多くの人を亡くすことになりました。誠に悲しいことであります。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

さらに津波による福島原子力発電所の設備が冷却出来ないことや、電源も通わず、予想も経験もない大災害を引き起こし、地震・津波・原発放射能事故と三重となり、この災害で被災地は市も町も村も全てを失うことになりました。心痛むばかりであります。

本郷同窓の仲間にも太平洋側におられる東北、関東地域の方々で確認がとれない人もおられましたし、又、近郊の浦安では液化化により、生活困窮しておられる方もおられました。

そうしたなか、多くの皆さんが全てを失っているにもかかわらず、立ち上がりはじめました。人の力のすごさ、すばらしさを痛感

し、人の持っている能力の無限さを感じ、人の絆の素晴らしさ、大切さをあらためて教えられました。再度、災害で亡くなられた多くの人達のご冥福をお祈り申し上げます。そして失われたなかから、復興への道を歩みだした方々に「頑張れ 日本」と心よりお祈り申し上げます。

学校では地震の際、帰宅できる人、学校に残る人を分け、先生生徒500余人が校舎で一夜を過ごしたそうです。安否も翌日全て確認でき、怪我人をだすことなく親元に送ることが出来たのは、普段の教育と対応訓練が行き届いていた成果でしょう。先生、生徒、関係者の皆さん「お見事」でした。

同窓会としては、母校の発展をはかるため、少しでも協力することと、会員相互の親睦を深める活動をしております。全国規模で活躍した生徒8件、57人(運動系54人、文化系3人)に表彰しました。中学生の夏期教養講座には会員3人が参加、講師を務めていただき、支援をすることができました。「本郷のあゆみ」を英文とし、海外研

修、その他に役立てていただくため500部を寄贈いたしました。

本郷祭ではブースをいただき、出品いたしました。又、その後、同窓会サロンを開催し、70人の参加をいただき、和気藹々と過ごしました。恒例となりました「成人の集い」（卒業後2年、成人となったお祝いと、うすくなりかけた同窓の絆を取り戻す機会を推進する）、60回生では、理事長をはじめ119人の参加により盛大に開催することが出来ました。

今年も卒業生は国立大学、私立大学進学により成績をあげているとのことです。

本郷学園は来年2012年に創立90周年を迎えます。それを機として2号館の建替えを前提として35館を3階建に建替えを行うことになっております。

今年、最も嬉しいことがございました。松平頼武理事長が秋の叙勲で「旭日小綬章」の栄を受章されました。大変名誉なことであり、同窓会会員皆様の誇りであります。この祝いを同窓会主催で行う事が出来ま

した。141人のご出席をいただき、皆様心をひとつにして、お祝い申し上げる会となりました。当日、ご出席いただいたなかに、1935年（昭和10年）卒業の方がおられました。七十六年前の卒業生です。私は生まれておりませんでした。旧制の卒業生16人、昭和20年代卒業生14人がご出席いただき、盛大に催すことができました。誠にありがとうございます。これを機に母校にお役に立ちたいなどの後日談がありました。ありがたいことです。

同窓会の運営には、若い方の参加が必要です。是非、ご連絡いただきたいと存じます。又、先輩方に教わりたいことも多く、ご連絡いただければお話を聞きしたいと思います。是非よろしくお願い致します。



学校法人 本郷学園  
理事長

松平 頼武

同窓会の皆様には、日頃から学校のためにご指導、ご支援を頂き誠にありがとうございます。

3月11日に起きました「東日本大震災」では、東京でも大きな被害が発生しましたが、特に東北地方在住の同窓会の方で被災された方がいらっしやらなかったかと心配しております。そして早い復興を祈っております。

学校では、11日には、帰宅できなかった生徒約450名が非常用の毛布と非常食で学校に泊まり、全員無事でした。学校の被害も寡少ですみました。

また、3月15日の高校の卒業式は、首都圏の交通混乱のため中止となりました。312人の卒業生諸君にはたいへん申し訳ないこととなりました。

卒業生は全員が大学を受験し、今年も国立大、私立大によい実績を上げてくれました。

2月の中学、高校入試も順調に終わり、4月の入学式を迎えることとなりました。

本学園は、2012年に創立90周年を迎え

ます。そこで、老朽化している建屋の再建を考慮しております。

本年度は、2階建ての旧機械科棟(35館)を3階建てに直し、次いで旧デザイン科棟(42館)の再建に着手致します。好評の人工芝グラウンドに続いての教育環境整備であります。

先輩諸兄の在校生に対する、多方面でのご指導、クラブ活動、大学入試の経験談を聴く会、先輩の社会活動を紹介頂く講演会、校外催しの成績優秀者への同窓会特別表彰など、生徒は大変喜んでおります。

学園運営に対しましても、同窓会の皆様には多くのご指導、ご支援を頂いておりますことに深く感謝申し上げます。是非今後ともよろしくお願いいたします。

私ごとではありますが、昨年秋の叙勲を受けました折には同窓会で盛大な祝賀会を催していただきました。身に余る光栄でございます。心から御礼を申し上げます。

今後とも、学校教育、社会教育に精進して参る所存でございますので、皆様の今まで同様の ご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます。

## 私の本中時代



宮本 良一

中学20回生

(1947年・昭和22年=卒業)

私と本郷中学とのご縁は、昭和17

年4月の入学から、海軍甲種飛行予科練習生に採用された昭和19年9月までの、二年五カ月の短い期間でした。しかし、今にして思うにこの間が私の人生にとりまして、最も純粹で一番充実していた時期であったと感じております。さて、私の生家は本中に程近い田端で、祖父の代まで赤松を取り扱う「松楽園」と言う植木屋で、土地の草分けでした。本中も桜・紅葉の里、染井にあり、何か深いご縁を感じながら通学しておりました。

この度、ふとしたご縁で、同窓会誌の「銀友」に投稿の機会を頂き、六十六年振りに往時のことどもを回想させて頂くことになり、恐縮し

ているところでございます。在学当時はまだ未熟で、気がつきませんでした。が、私立二期校としての実績・スタッフ・施設設備の充実は、その名声とともに都下にあまねく知られておりましたが、私はそんなことは何も知らずに毎日元気に通学いたしておりました。

生家から徒歩で登校しましたが、本中の近くになると、染井能楽堂に次いで、校長先生の貴族院議長長伯爵松平頼寿邸の塀が長々と続き、やつと校門にたどり着く毎日でした。門道の銀杏の記念樹も憧れでした。ご案内のように、校内は当時の中学校としては抜群の広大さで、その中に鉄筋造りの本館・格調高い木造校舎・柔剣道の格技場・永井体育館・

工作棟・銃器庫等が立ち並び、広々とした運動場と、隣接した園芸場といった施設・設備は圧巻でした。私などは昼休みが待ち遠しくて、その都度待ちかねた様に運動場に飛びだしたものでした。

授業科目も非常に充実しており、担当の先生方もそれに応えるべく、私ども生徒を上げてくださいました。六十余年も経た今では、お教えを賜った先生方のお名前は失念してしまい、記憶もさだかではありませんが、副校長の小林先生に書道、服部先生に図画、成沢先生に英語、三木先生に園芸、そしてバケチこと泉山先生に軍事教練を習った事は鮮明に記憶しております。

それに、授業科目も一年時から盛り沢山で、国語・漢文・英語・英文法・代数・幾何・地理・日本史・博物・図画・音楽・書道・工作・園芸・体操・柔道(剣道)・軍事教練などでした。定期試験は、中間が二、三学期に、期

末試験は当然各学期に行われ、特に学年末には学年の首席から末席までの一覧を、巻紙に書いて校舎の壁に掲示されるのは、脅威でもあり楽しみでもありました。

特に、この順位は次年度進級時のクラス分けの順番になるので生徒の最大関心事でした。トップクラスの生徒ならすぐに自分のクラスが予想出来るのですが、成績下位の私などは大変でした。私にとりましては成績トップの市川君、三浦君、松本君、門倉君などは雲の上の存在でした。なお、末席の五、六名は朱筆で記され、次年度原級留置になりました。このように、成績評価は非常に厳しいものでした。

教科の中で、今の学校に無いものに軍事教練がありました。私は三年の二学期迄でしたので、徒手教練に終始し上級生のように野外演習・空砲射撃などの軍事の触りには縁がありませんでしたが、三八式

小銃の分解・組み立てを習ったことは忘れられない思い出となっていました。二年時に一度だけ練馬の飛行場に数日、勤労動員に行っただけで、三年の中間試験迄は勤労動員に行かないで済んだことは、開戦直後の17年入学の生徒としては、異例のことと後年知ることが出来、厳しい戦時でも松平校長始め諸先生方の熱い気持ちがかうかがい知ることが出来ました。

また、時折旧制高校に進学した先輩の寄せる檄文が校舎の一隅に掲示され、在校生に先輩からの励ましもありました。戦時下ですので当然のことながら、陸士・海兵に進んだ先輩方の激励もありました。校外学習もいろいろあり、学校から行軍による明治神宮参拝や新宿駅頭から府中までの行軍、赤羽の舟戸が原への行軍は厳しさよりも楽しい思い出として残っております。

クラスにつきましては、二年時は担

任が国語の確井誠三郎先生で、級長は市川君。他に門倉、小沢、大島、佐藤（佐藤ハチロウの子息で安房中に移り、甲飛で同分隊）を覚えています。二年時は担任が教練の泉山重次郎先生で、級長は畏友の門倉君。川村、森、北村君位しか思い出せません。手元にある当時の写真を見ますと57名の級友が写っています。が、残念です。三年時の担任は、体操の先生でしたが名前を失念してしまいました。が、級長は努力家の門倉君であつたことは忘れません。

三年も中間試験が済んだ頃から、勤労動員の話がちらほら囁かれるようになり、とうとう夏休み前から錦糸町先の江東区今江町一帯の建物疎開の作業に動員されることになり、毎日日本郷神明町から市電を乗り継いで、現場に通勤するようになりました。

当時としては厳しい勉強から開放され、作業も楽しい感じがしたこ

とは事実でした。その頃、門倉君と二人で江ノ島に遊びに行き、大雨に降り込められたのも、戦時下のささやかな思い出となっております。また、海軍兵学校予科が新たに設置され、中学三年から受験が出来ることになり、本中にも通知があったこととなり、門倉君と二人で出願の手続きをとりました。ところが、私は当時すでに海軍甲種飛行予科練習生を受験済で、その後追いかけるように甲飛合格の通知を受け取ることになり、彼より一足早く昭和19年9月に海軍にはいることになり、本中を退学することになってしまいました。

係わりは終わりとなってしまいう訳で、以後、縁の糸がいつの間にか途切れてしまいました。何時も本中時代のことは心の片隅にしかも鮮明に残っております。

「私の本中時代」と題したお話もそろそろ種切れになったようです。同じ学年に学ばれた方々でも、当時の思いはそれぞれの筈です。当時の一本中生の思い出とお聞き流して下さい。復員後私は一時都下の多摩村に引き移りましたが、その後縁あつて茗溪に学び、高校・栄養士・養護教諭・看護師教育に当たり、改めて本中の教育を噛みしめる機会を得ることが出来、感謝致しております。現在、千葉市の自宅と木更津市山荘を往来して暮らしております。母校本郷学園の飛躍と同窓会の発展をご祈念申し上げます。終わりとさせて頂きます。



昭和18年11月3日 本郷中学校園芸場南隣の草地にて  
2年5組 泉山重次郎先生(担任) 級長門倉君、先生の左うしろ  
小生 2列目、左より8人目

## 松平頼武理事長の 叙勲を祝う

平成22年11月3日に本郷学園の松平頼武理事長が旭日小授章を受章されました。

その吉報を受けて同窓会主催の叙勲記念祝賀会が南谷修同窓会長及び同窓会の40人を発起人として、平成23年2月20日の日曜日にあるルカディア市ヶ谷(私学会館)富士の間において盛大に行なわれました。来賓としてはボーイスカウト関連の方々と少林寺拳法の方々そして、本郷学園からは中学校高等学校の北原福二校長、中津川直昭常務理事、松平頼昌理事、山梨英克高校教頭、佐久間昭浩中学校教頭、副校長：入試広報部長の私、福永恭子もみじ幼稚園園長と父母の会からは会長の須藤栄子様、前会長の福島純子



宮沢 正喜

本郷中学校・高等学校  
副校長

高校18回生

1966年(昭和41年)卒業

様が招待されました。同窓会からは最高齢93歳(昭和10年卒業)の先輩から大学生まで約150人の出席者がありました。

松平理事長と令夫人が盛大な拍手の中で入場され、中央のひな壇に着席されると秋元幹夫副会長の開会の辞があり祝賀会セレモニーが厳粛に始まりました。最初にパワーポイントを使って松平理事長の功績等歩みについて司会の元日本テレビアナウンサーの志生野温夫氏から紹介がありました。続いて南谷会長による発起人代表の挨拶があり、松平理事長が永年にわたり私学振興・社会教育に貢献されてその功績によりこの度名誉ある「旭日章小授章」受章の栄に浴された旨を話された後、本郷

学園を代表して私が挨拶をいたしました。私の話は入試広報の責任者の立場からここ20年(本郷中学校は1998年に再開しました)の本郷中学校高等学校の歴史を話し、「現在の本郷中学校高等学校の興隆は、松平理事長が校長と理事長を兼任していた時の1998年度、1999年度の中学校の入学試験における決断によるものである」と紹介をさせていただきました。続いて「横浜ブリキのおもちゃ博物館」館長の北原照久氏夫人句子様からの代理の挨拶がありました。祝電は亀井忠雄氏や秋本治氏、北島康介氏など卒業生からも数多く寄せられました。

松平理事長の謝辞のあと山内英夫前同窓会会長の乾杯で宴会が始まりました。しばし楽しい懇談のあと南谷会長から記念品の贈呈が行われました。記念品は松平理事長が永年にわたり愛用しているパーカーの万年筆が贈呈されました。この万年筆

は現在すでに生産していないものでしたがパーカー社の好意で作っていただいた万年筆です。またパーカー社からも松平理事長に永年愛用していただいている感謝の気持ちを含めた記念の万年筆の贈呈がありました。続いてボーイスカウトから藤田吉彦様、少林寺拳法からは後藤和雄様、父母の会からは前会長福島純子様から来賓祝辞がありました。ボーイスカウトの方々からは同窓生のボーイスカウトの関連者も含めて、弥栄えのかけ声を賑やかに3回やっていたとき場が大いに盛り上がりました。

しばらく楽しく懇談したあと、北原夫人と現役大学生の佐藤明彦君から理事長と令夫人にそれぞれ花束贈呈が行われました。会は終始なごやかな雰囲気なかで進行いたしました。会場内では同期生や先輩、後輩等と久しぶりに再会して懐かしさに旧交を温めているシーンも数多く見受けられました。

閉会間際には出席者全員で校歌を斉唱いたしました。全員の気持ちがつになり、非常に力強い歌声が印象的でした。終わりに玉川昭二同窓会副会長の閉会の辞で無事に宴会は終了いたしました。同窓生ではありませんが司会を快く引き受けてくださり、かつ会をスムーズに進行していただきました志生野様にも篤く御礼を申し上げます。松平理事長の叙勲祝賀会をきっかけに同窓会もより一層強固になっていくことを大いに期待いたしております。

また、本郷学園におきまして12月20日二学期終業式の日を受章祝賀会を行いました。来賓として、学園理事の方々、同窓会の代表の方々、父母の会の代表の方々をお迎えして本校中学校・高等学校・幼稚園の教職員が中心になり、池袋ホテルメトロポリタン3階富士の間において盛大に行われましたこともあわせてご報告いたします。



# 現役時代の思い出

## —そして今、カナダライフ

はじめまして。

本郷高校（普通科）卒業が昭和43年（1968年）3月、今から43年前になります。人生既に61年、語り尽くせない程いろいろなことがありました。でも今振り返るとすべてが不思議な程あつという間の出来事感じます。

本郷高校卒業後は日本大学経済学部経済学科に進学、そして昭和47年（1972年）に卒業し、某生命保険会社（買収により現在は外資系生保）に入社、いよいよ夢に胸躍らせサラリーマン人生のスタート。ところが環境に馴染めず僅か一年で退職してしまい、父の家業を始めるもその直後に発生したオイルショックにより敢え無くも事



鈴木 伸久

高校20回生

1968年（昭和43年）卒業

業継続を断念。日本経済もそれが原因で国中が一時パニック状態に陥り、なかなか前途多難な幕開けかと思わせるスタートを切りました。幸い直ぐに保険（外資系損保）の仕事に戻ることが出来、サラリーマン人生のやり直しのきっかけを掴むことが出来ました。再スタートです。

在学中より金融業界を希望して入社した生命保険会社を自ら簡単に放棄してしまいがちながら挫折の後直ぐに軌道修正が出来たのも当時の日本が高度経済成長期に入ってきたお陰だと思っています。外資系損保で仕事を始めたことがきっかけとなり、昭和53年（1978年）に同じく外資系保険ブローカー

（保険仲立人）会社からお誘いの話があつて二つ返事で快諾。当時としては日本でもあまり耳慣れない職業だった為に親からも心配され友人からも怪しい目で見られながらも本人は気にもせず満を持して新しい仕事への挑戦が始まりました。

ところがトップも外人（アメリカ人）、営業部長も外人（アメリカ人）おまけに営業会議も英語、毎日が英語に囲まれての仕事に徐々に自信が喪失していききました。大学時代はE.S.Sで活動をしていたこともあつて英語には少々自信をもっていたにも関わらずこの会社ではまったく歯が立たず苦勞の連続、正に崖っぷちの心境でした。このままでは会社に残れない、仮に残れたとしても先が見えて来てしまいそうと、打ち砕けそうになる気持ち奮い立たせて密かに夜間の英語学校へ通い始めました。

それから4年程が経った頃、会

社からアメリカへ短期の語学留学を勧められ自分の耳を疑いながらも願ってもないチャンスに言うまでもなく即オーケーの返事。アメリカはシアトル郊外の大学キャンパスで行われていた英語クラスへ入学。歳は既に三十二才、しかし初めての外国、初めてのアメリカの大学キャンパス、想像していた以上に何もかもが広くて大きい、すべてが新鮮で感動の連続でした。翌日から早速クラス分けが行われ大変名誉なことに上級クラスへ入れて貰えることに。しかしついでに行けるのだからかと大きな不安が過ぎり、でも「やるっきゃない」と開き直りの精神で我を捨て授業に突入。毎日朝9時から昼食を挟んで夕方4時までびっしりと授業が行われ、その後も消化出来ない程の宿題の山、半端ではない。勉強から開放され自由な時間が戻ってくるのは結局週末だけ、その繰り返しでした。それ

でも若い仲間と久し振りに学生気分に戻りながら毎日充実した楽しいキャンパスライフを送り、そしてあつという間に語学研修も無事に終了。日本帰国前に1週間のニューヨーク本社研修が認められ一路マンハッタンへ。

到着日の翌朝、聳え立つ摩天楼の一角にある本社ビルを仰ぎ見ながら鳥肌の立つ思いでしばし自己陶醉の世界に浸りながら心の中では将来必ずもう一度ここに戻って来ようと強く自分に誓いを立てながら「方では外資系企業で本社勤務なんてあり得ない」と心中冷ややかに現実否定。それから二週間の本社研修を終えて日本へ帰国。毎日の仕事も楽しくなり始めてやがて三十八才の時に夢は現実になり気が付けば家族を連れてニューヨークの本社へ転勤。充実の日々、家族も楽しんでくれている、考えてもいなかった素晴らしい経験を積ませて貰いその

貴重な経験が更にその後のサラリーマン人生を大きく飛躍させたことは言うまでもありません。

ニューヨークでの仕事もバブル崩壊などもあつたりして1990年8月に家族を連れて日本へ帰国、在任期間としては少々物足りなさを感じたものの、その後暫くは安定したサラリーマン人生を歩んでいたところへ再び訪れた海外勤務のチャンス、今度はシンガポールです。アジアの金融センターとして成長著しい国での大きなチャレンジ、申し分なし！今までの経験が存分に発揮出来るし五十の歳で現役最後の挑戦が出来るのは願つたり叶つたりのことでした。今回は長期になりそうと覚悟を決め、出発の日に向けて仕事の整理や引継ぎをしながらその準備が始まりました。個人的には海外に出て行けることは子供の頃からの大きな夢でもあったので人生において会社から二度

もチャンスを貰えるなんてなんとラッキーなことだと感謝。そして妻も二度目の海外赴任を喜んでくれました。

時間はあつという間に過ぎて行き、いよいよ日本を出発、2000年5月、シンガポールに着任。家が見つかるまでの間は暫くホテルから事務所へ通勤しなくてはいけなかったが僅か一〇分ほどの距離。おまけに東京で毎日見る地獄の様な通勤ラッシュはほとんどなくとても快適。

事務所はラッフルズブレース、東京で言えば大手町の様な金融街にあり、近代的な高層ビルが立ち並ぶその一つのビルの中になりました。当時社員数は二百八十名ほどで多民族国家らしく中華系シンガポール人あり、マレー系あり、インド系ありと多種多様。他にも二十名程の白人社員もいたり、正に国際的な職場環境です。共通言語は英語、しかしシングリッシュならぬシンガポール

英語、訛りの強いマレー英語、巻き舌でほとんど分かり難いインド系英語、仕事以前にお国訛りの英語に苦勞させられそうでした。しかし彼らは機関銃の様に喋り捲るが英語力は決してお世辞にも流暢とは言えず、相変わらず下手くそな英語しか喋れない私にとつてはラッキー、気を遣わずだいたい助けられたのも事実でした。

1965年にマレーシアより独立を果たし、資源も無い国が僅か三十五年で世界の二流近代国家の仲間入りを果たしたシンガポールでは建国の父と言われ今でも影響力を持っているリー・クワンユー氏の功績は大きく、一党独裁制国家でありながら国民誰一人不満を言わず、むしろ国民自身も豊かになり、一丸となつて益々国が発展し成長を続けていく姿はかつての1970年〜1980年代高度経済成長期の日本を彷彿させるものを感じたもの

です。

発展を続けるシンガポールで日本人である自分が何をするのか、簡単に言うとはシンガポールを始め、アジアの国々に進出をする日系企業の現地での保険のお世話をする事、保険業界の人であれば理解しやすいかと思いますが結構複雑な保険もたくさんあつて思うほど簡単ではないかもしれません。自称保険プロを自認する自分の様なスペシャリストが欧米ではごく普通にいて企業の為に危機管理の一環としていろいろなアドバイスや保険の手配などを行っています。

アジアでは日本人初の保険ブローカーとしてデビュー、何の実績も無く一からのスタートであつた為、なかなか突破口が見出せず軌道に乗るまでに数ヶ月の苦勞を要しました。しかしいったん走り出すと面白いように仕事は順調、やがて大きな仕事を手掛ける様になつていまし

た。お陰で中国やインド、タイやマレーシア、台湾にフィリピン等々あちこちからお声が掛かるようになり嬉しい悲鳴を上げていました。その後競争相手も徐々に増えていき、十年が経過した今では市場もかなり整備され益々発展しながらブローカーの使命を果たしつつ多くの企業の為に貢献しているものと思います。

一ヶ月のうち半分以上は忙しく各国を飛び回る日々が続き、充実した時間がどんどん過ぎて行く。五十も過ぎて歳の所為で時間が経つのが早いだけではないだろうと。またもし日本で仕事を続けていたらこんな刺激的で貴重な経験が出来たのだろうかと思っただけです。

ところが五十五歳を前にして一大決心をします。定年前に早期退職をしてその後は海外でのんびりと過ごそうと。最初はオーストラリア

のケアンズへ移住しようと思っていたのがいつしか気持ちはカナダの方へ。理由はシンガポールが一年中暑い国だった所為でその反対に北国志向が強くなってきたのも向かい合いました。最後の決め手は長期休暇旅行で行ったカナダの大自然に一目惚れしてしまい気持ちが一転、それ以来毎年の様に旅行で現地を訪れてはますますカナダの大自然にのめり込んでいき、徐々にカナダ移住の思いを強く抱くようになりました。ちょうど五十七才になった年(2007年)、後ろ髪を惹かれる思いで早期退職願を提出、その後いったん日本へ帰国。

ビザを申請して待つこと3年半、2010年11月ようやく永住ビザを取得。

いよいよ人生の第2幕、カナダでの新しい生活の始まりです。

ノースバンクーバーにて



バンクーバーダウンタウンの人気スポット、イェールタウンを望む

## 第90回 全国高校ラグビー大会

## 観戦記



遠藤 千秋

本郷中学校・高等学校  
教諭

高校33年生

1981年(昭和56年)卒業

いざ!!花園へ——。昨年12月27日の夜。3台の応援バスは中学生・高校生・その保護者さらに教職員も乗せ果鳴を出発した。翌日の応援にそなえ早く寝ようとするが、グラウンドでプレーする選手たちの姿が頭

のなかを駆け巡るだけではなく、さらに対戦相手の戦力までも勝手に分析したりして、気持ちは高ぶるばかりだ。車内のあちらこちらでも、  
『ああでもない。こうでもない』とささやきあう声が広がり、深夜になつても一向に寝付かれない。奈良に着いたのは翌朝の6時半頃。朝食を法隆寺のかいわいでとり、そのあと、勝利祈願も兼ねながら法隆寺に参詣した。朝も早かったこともあり参詣者は、私たちがほとんどのよう

あつた。参詣及び見学を終了し、東大阪・近鉄花園ラグビー場に向けてバスは突き進んでいった。

本郷は、東京第一地区の優勝校として、「第90回全国高等学校ラグビーフットボール大会」に駒を進めた。3年ぶり9回目の全国大会出場である。初戦の1回戦は大会第2日目の12月28日に第1グラウンドで行われた。対戦相手は、28年ぶり復活の古豪・福岡高校である。かつては3回も全国優勝している名門校だ。本郷ばかりでなく福岡高校も高校ジャパン候補を複数擁しており、1回戦屈指の好勝負と試合前から期待されていたようである。スタンドの福岡高校応援団は全校あげて、とも思えるような人数で熱気

が伝わってくる。しかしながら、我が本郷の応援団もそれに負けず劣らずの気合いで場内に入ってしまった。

試合は福岡高校にリードを許す展開となった。前半6分、福岡高校は、本郷陣ゴール前のラックから中尾選手が右へ一人飛ばし、ウイングで前評判の高い俊足の福岡選手にパスをした。そこで、我が本郷も負けずに3人がデイフェンスで立ち向かったが、そこを交わされトライを許した。さらに、ゴールも決められて、先制されてしまい7点を失点。

この後は、両校とも鋭い出足の好タックルが突き刺さり、一進一退の見応えのある攻防が続いた。一昨年、本郷ラグビーの名を全国に知らしめた大浦監督(本校教諭)に代わって指導する渡辺監督(本校教諭)にとつて、いつもと違う気持ちで向かう全国大会である。選手たち自身もレギュラーになって初の花園だ。初心に戻って一試合一試合を戦い抜いていこ

うという意気込みで向かっていった。前半28分、本郷は福岡陣ゴール直前のF Wサイド攻撃から、右F Wの吉田選手が執念のトライをあげ、2点差に追い上げた。そして、前半戦が終了。

ハーフタイムでは、両校とも熱の入った応援であったが、福岡高校は男女共学校でもあり、黄色い声援が飛び交っていた。

いよいよ後半戦。

後半に入って福岡高校も運動量はなかなか衰えなかった。我が本郷も体を張ったタックルで応戦し、押しぎみに試合を進めていたが、なかなか決定的なチャンスをつかめない。

後半21分に本郷は、河合選手が福岡陣ゴール前15m、右中間からペナルティーゴールを成功させて8対7と逆転。目のさめるような素晴らしいキックで本郷が一歩リードだ。わき上がる本郷の応援団。このまま、残り10分、トライまたはゴールをさ

れなければと、皆が祈る思いの応援はさらに熱が入っていた。

このまま終了かと思われた後半28分、福岡高校は自陣ゴールからボールを展開し、最後は前半戦で俊足を見せた福岡選手がライン際を50m疾走していった。トライ寸前に我が本郷のデイフェンスも追いつき、タックルでタッチラインの外に押し出し、タッチジャッジの旗が上がった。やったぞ。これで勝利だ。と本郷応援団が喜びあつた瞬間だ。しかしレフリーは、反則のハイタックルでラインの外に出たとの判定をくだし、福岡高校の認定トライを宣言した。8対14の逆転負けである。

結果は残念なことではある。選手一人一人がここまで来るのに、汗と涙に紛れながら毎日、暗くなっても練習を行ってきたことを思えば、その時は皆悔しいかもしれないが、後悔はしないであろう。

今回この花園ラグビー場に来て、

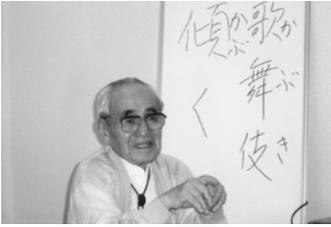
多くの強豪校の前で応援ができたことを誇りに思いたい。選手、監督、そしてそれを支え指導されたOBの方々へ心より感謝したい。また、この観戦記を書く機会をいただき、心より感謝いたします。



本郷高校ラグビー部OB保護者・新田明彦氏提供

## 本郷中学校「教養講座」の講師に

本郷中学校が例年、夏休みに1、2年生を対象として実施している「教養講座」で、昨年は同窓会の景山正隆さん(中学13回生)1940年卒業)、南谷修さん(高校8回生)1956年卒業)、富岡俊明さん(高校21回生)1969年卒業)が講師を務めました。



景山さんが担当した講座は「歌舞伎を観る楽しみ」です。景山さんは、いまも国立劇場養成課講師として

月に数回講義しています。国文学者。東京大学卒業。文学博士。学位

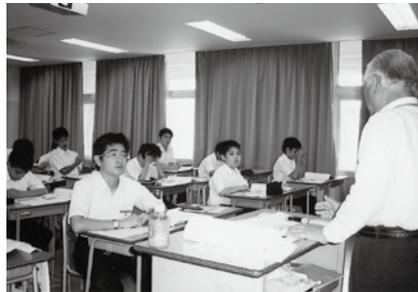
論文のテーマは「歌舞伎音楽の研究―国文学の視点―」です。元東洋大学文学部教授。文化財保護審議会専門委員などの公職を歴任。社団法人義太夫協会名誉会長。

講座では、歌舞伎の歴史、仕組みをとおして、歌舞伎のおもしろさや鑑賞のポイントを、自ら編集したビデオテープを駆使してわかりやすく語っていました。

前年に引き続き担当した南谷さんの講座は、建築家としての豊富な経験にもとづく「ものづくりの楽しさ」です。南谷さんは、鹿島建設株式会社で現場監督、所長として多くの建築物の建設にたずさわり、建築部門の最高責任者として国内外を掌握してきました。現在も顧問の重責を担っています。

講座では、いまや超高層ビル時代を迎えた「建築の歴史」をたどる

とともに、建物やダム、橋、トンネル工事の技術について図形等を示してビジュアルに解説していました。



税理士の富岡俊明さんの講座は「税金ってなんだろう」。富岡さんは約28年間

の東京国税局勤務のあと、税理士事務所を開業しました。近年、業

務のかたわら社会人のための夜間の筑波大学大学院で租税法学を学び、修士の資格を取りました。

国税庁作成の中学生向け租税教室の教材を活用しての講座では、税金の仕組みや税金の使われ方などについて説明していました。またアタッシュケースに入った1万円札で1億円分の札束のレプリカを用意し、ズッシリと手ごたえのある、その分量を体感してもらっていました。



また、鹿島建設株式会社の鹿島技術研究所・西調布実験場を訪問する校外講座もセットされました。生徒たちは約2時間、同研究所の風洞実験室をはじめ屋上緑化、構造実験棟、音響実験室（残響室、無響室）、免震建物、コンクリート技術（展示）を見学し、最先端の諸技術を学びました。



⑳ 展示・実験棟 ㉑ 振動実験棟 ㉒ コンクリート・風洞実験棟  
㉓ 大型構造実験棟 ㉔ 地質・基礎実験棟 ㉕ 環境工学実験棟  
㉖ 施工・防災実験棟 ㉗ 機材棟

本郷中学校では、1・2・3年生を対象として開催する夏休みの「サマーセミナー」の講師を、学外からも広く募っています。日ごろの授業の枠をこえ、生徒の人生経験を広げるきっかけとなるような講座を目指すものです。生徒にとっては学校の外の世界を知る貴重な経験になります。また、講師の方々にとっても好奇心旺盛な若々しい生徒たちと交流できるチャンスになることでしょう。

尚、お手伝いいただける場合は同窓会あてにFAX(03-3917-0007)にてご連絡下さい。



# 同期の

# 輪

同期の輪

高校60回生

(2008年平成20年卒業)

成人の集い

清村翔

大学入学当初は、男子校で育った私にとって女子がいるという慣れない環境からなのか、本郷の友人と会う機会が多かった。しかし、私も微力ながら成長し環境に順応していく中で、本郷の友人とはほとんど会うことがなくなっていた。そのため、成人の集いという形で再会できることはとても楽しみであった。

中入生である私にとって青春の半分以上を過ごし、現在の私につくり上げたと言っても過言ではない本郷には、感謝の念で一杯であり、委員長として参加できることを光栄に思

い、準備に励んだ。しかし、まだまだ未熟な私では力不足であり、同窓会の諸先輩方や諸先生方に協力して頂くことで、ようやく開催に至ることができた。

当日は二年ぶりにあう友人も多く、懐かしい顔がドアのさきから覗くたびに歓声をあげ、思い出話や近況報告に花を咲かせるなど、高校時代を懐かしく感じた。また、先生方とお酒をくみ交わし、当時感じていた先生と生徒という距離も近づき、少しは対等に話すことができるようになったことで自らの成長を感じた。委員長としての仕事を忘れるほど会話に夢中になるなど、少しはしゃぎすぎた部分もあったが、全体としては山梨教頭の「この学年はこういうのが大好きな学年だったのを思い出した。」という言葉が物語るように、大いに盛り上がり、大成功に終わった。

友人、先生方と再び会うことで、バ



ワーを貰い、本郷高校の素晴らしさを改めて感じる事ができた。(この「成人の集い」は2010年5月15日に開催されました)

同期の集

### 中学17回生

(1944年昭和19年卒業)

#### 染桜会

高野正美

平成22年寅年も後残す所僅かになりました。

さて、今年のクラス会は諸兄の健康も考慮し、日帰りで実施いたしました。場所は、横浜中華街の「頂好」(ティンハオ)と云う、高野の永年行きつけで、結構無理のきく店で行いました。

お互い84歳にもなりますので、体調・足腰の関係で不参加の友人も多かったですが、当日はJ.R桜木町駅改札口で集合し、タクシーに分乗して中華街に参りました。天気も良く且つ日曜と云う事もあって「関帝廟」前で下車し会場へ参りました。

懐古談・健康や病気の事等々話は尽きず、老酒は15年もの(年陳と云います)がマイルドで、それこそ老人にやさしいお酒でした。料理も奮発したので珍品・美味しいもの・消化に良いものが卓上に並びました。来年は卯年〜早生まれの友人も84歳になります。

昭和19年3月の折は200余名のスタヂでしたが、今後も案内状は要るか不要か尋ねた所、22名までに絞られました。今回の参加者は14名でしたので、来年11月21日(月)には今回よりも参加者が増えてほしいと思つて居ります。若い時と違つて、観光とか旅行などよりは、集まるところに意義がありますので、来年も同じ場所に集まりたいと存じます。

尚、本郷学園の新会長の南谷さんは、住まいが私と同じ藤沢なので同窓会の折には御一緒になり、お近づき頂き、今回のクラス会には、臨時に出席される予定でしたが、お仕事の関

係で残念ながらお越し頂けませんでした。

今回の参加者14名は次の通りです。

伊藤三郎、小倉高規、乙部邦寿、尾前廣、熊谷更新、佐藤元徳、新谷卓司、立山文男、土屋二郎、中山茂、益田泰彦、水田裕昭、藪田幸一、高野正美

今回不参加だが、連絡案内などは引き続き送つて欲しいと云う8人の友人は

秋田禮一、川内慎、清水英夫、白木博也、田中稔、寺口有喜公、町田滋、藪清平

来年のクラス会を待たなくても、時には何人かでの食事会も良いんじゃないでしょうか。又、土屋君のお世話で数人でのメールを楽しんでいます。特に藪田君はゴールドコーストからのメールをNHKと同じに頂いています。又、残念ながら保坂君及び中谷君の訃報も頂きました。足腰の痛みで出られない方も結構い



後列左から新谷、中山、熊谷、立山、乙部、高野、伊藤  
尾前前列左から佐藤、薮田、水田、益田、小倉、土屋

ます。斯く云う高野も80歳まではピンピンして居ましたが、今は杖が頼り、坂の多い場所なので「クルマ」も手放せません。

尚、母校の本郷学園は、今だと私達は到底入学出来ないのではとも思うようなレベルの高い私学高校になりました。

〜諸兄にお願い〜

① 毎年の、同窓会総会が6月に、秋の9月下旬に学園祭の折に同窓会室が設けられ、3時頃からの懇親会は楽しいですよ。

② そうそう同窓会費の納入は是非ともお忘れにならないように。

③ 尚、先日のクラス会では新谷君が石を刻んだ級友皆の「名前」のハンコウを作ってきてプレゼントしてくれました。以前から彼の趣味ですが、腕が上がって上手になりました。中山茂画伯は自分の画の落款を作ったそうですし、わたしは老人会長なので勇退者に感謝状を出す場合に捺印する5cm角の石印を作って貰いました。彼から頼まれた訳ではないが、若干実費程度だが、葉書を出す時にお洒落に捺印すると一寸楽しいですよ。気のある人は頼むといいと思います。(平成22年12月7日)

同期の会

中学18回生(1945年11昭和20年11卒業)

「嵐を踏み越えて」集う同期会(39回)

前田和男

「皆さん今日は」。今年の本中18回総会(2010年10月30日)ほど変則だらけの会はありませんでした。この一文を書くに当たって、まず頭に去来したのは、ナツメロの「愛染かつら」のあのフレーズ「花も嵐も踏み越えて」でした。

一人又二人と友が現れる度に、エンドレステープみたいになんかが頭の中で鳴っていました。今までも天気を気にした事はしばしばでしたが(雨の日が多かったですね)、あさっては11月だという時に台風。その上、予報では東京が一番ひどいのは30日の午後3時だというのだから、もう何をか言わんやです。時刻まで当てるとは、わたしなんか気が小さいから、わアードうしよう頭を抱えてしまいました。が、考えても仕方がないと、なるように成れと

落ち着きを取戻しました。その晩はぐつぐつと眠りました。

当日は予想通り雨でして、交通機関に故障の出ないうちにと会場へもう何人かの幹事の方がせつせと準備に掛かっていました。

出席25名。こんな悪い天候によろこそ。止むを得ず欠席5名。

定刻になり総会を光琳の間で開会。

佐々木君の司会でこんな発言がありました。「この天候のなかで、議事・講演などを早めにした」と。了承。昨年の会から今日まで物故した方々への黙祷から始まり、全てテキパキと進行させた。

岡田君も、講演内容はレシピによく書いてあるので、質問・照会があればお答えしますと言われ、短い時間なのに、「税の川柳」を解説する軽妙さに感服。それにしてもご苦労さまでした。

集合写真もいつもの如く手際よく

済ませた。それにつけても、カメラ担当の疋田君の努力に脱帽したいと思いませんか。あの重いカメラ・三脚を荒天の中を持って来てくれた友情に心から感謝したいです。

トントンと会は進み、宴会タイム。司会から、一人ずつ短いスピーチをとの提案。賛成となり一人ずつ二言しゃべった。近況とか、今までどう過ごしたかの自分史など。それぞれ個性があり、大変興味深かった。友の意外な二面に触れる思いがした。いい試みだった。

宴が進み、いつもと二寸違うことは、時々閉まったカーテン越しに外の様子を気にしている方に気づき、表面は少しも気にしないで談笑しつつ、話の切れ目に空模様が気になるのだなと思ひ、わたしはソワソワしてしまっただけ。ボーイが気づいて、カーテンが開けられた。風がそれ程でないのにホッとした。

例年より一時間も早い二時半に、



疋田 佐々木  
志田 高橋(正)  
西野  
新井(義) 細井(善)  
山口  
今里 前田  
矢部  
松廣 山本  
鳥飼  
檜垣 大塩  
新井(保)  
大原 岡田  
宮沢  
鈴木(卓) 高柳  
松元  
高桑 岩淵

司会よりお開きの合図があった。絶妙のタイミングだったと思いました。

いつも思うことですが、年ごとに、お別れの皆さんの言葉やしぐさが、味が濃くなるのではないのでしょうか。別れ際の皆さんの笑顔の良かったこと。

交わす言葉も「来年もまた会おうな」「うん、来年もな」

このやり取りのさり気ない優しさ。開会で大塩会長がいみじくも言った「出会いを大切に…」に、ぴったり符合しますね。一生に会う人の数は数え切りませんが、真に喜んだり悲しんだりする人はそうはいません。出会いを大切にしたら人達の集りに、そして皆さんの心を察すると、近頃涙腺がもろくなつたわたしは、うるうるとなりそうでした。

でも心配がまだあります。無事にお帰りになつたかということ。でも全員無事でした。ご苦労さまでした。

いつものことながら、今年お休みだった方も、来年はどうぞお出で下さい。勿論、今年出席の方は是非々々。毎度のことですが、自分の感じたことばかり書きましてすいません。嵐だったのに心はほかほか

の日でした。皆さん、くれぐれもお身お大切に。

同期の部  
高校12回生

(1960年11昭和35年11卒業)

同期会

大槻勝英

仲間達の声が聞きたくて!!

平成22年6月12日17時より、小岩の会場に本郷高校12回生の仲間達が集合して、今年も同期会が行われました(写真11後列右から渋谷成太、錦孝治、深沢素夫、小早川正幸、田部井勇、井口勝弘、田嶋輝男君。中列右から江原稔、古川進、矢部恭一、阿久津二三男、辻忠直、渡部清吾、大西吉君。前列右から市倉洋一、飯田典幸、中村宣由、関宗志三、熊木宏治、鈴木教司、大槻勝英君)。昨年は何年振りかの同期会とあって、出席した仲間達も最初はだいぶ緊張していた様に見えましたが、今年は会場に来るのも早くから来て、会場内のサウナに入り、受け付けま



での時間をのんびり過ごしていた者もいて、リラックスマードの中で同期会が始まりました。

17時開始には参加を申し込んだ仲間達も全員集まり、大変成績もよく(学生時代と違い)、男達だけの集団で多少色気に欠けるものの、我々も振り返ればもうすぐ70才代の節目に乗る年代で、互に学生の頃

を彷彿させる様なにぎやかな会場となり、全員で同期会を楽しんでくれた事と思いい人ほくそ笑んでいました。

日頃は会う事もなく、又特別連絡を取り合っていないなくても、一年振りの再会でも、こんなに和やかに語り合い、酒を飲み干して乾杯できるのも、若き時代の青春を思い、懐かしむ気持ちからこの様な和やかな雰囲気になるのでしょうか。

なかなか連絡の取れない仲間達、そして遠方に居る仲間達も少しも時間を取り、この同期会に参加して青春時代を大いに語り、元気を貰って少しでも明日への活力に繋げていただきたい。

これからも同期会が仲間達の良き情報交換の場となり、また会う事が楽しみな同期会であれば、同期会を行う意味も大きいと思いますし、何時までも本郷高校12回生として交流を深めたいと思ったのは、私だけ

ではないでしょう。

また次回も楽しみに!! (2010年9月21日)

同期の会

高校13回生

(1961年昭和36年卒業)

同期会

齋藤毅

平成22年11月14日(日)、高校13

回生の同期会を開催した。年1回の同期会だが参加者は17名で盛会を喜び合い、お互い元気に過ごしていることを確認した次第である。話題は高校生時代の話を中心で、参加者のひとりが卒業記念に出版された記念集「郷愁」を持参した。この詩集は卒業生全員が書いた原稿が掲載されたもので卒業時の若かったときの思いや人生への目標のような

事柄が沸々と読み取れ、参加者一同遠い昔を懐かしむ思いでいっぱいであった。また、この詩集には当時の担任の「奥原正先生」「渋谷靖雄先生」「石井光和先生」「小沢祐康先生」

「佐藤庸雄先生」「森誠太郎先生」が原稿を寄せて下さっていた。

すでにご他界された先生もおられ、いろいろお世話になったことなど思い出しながらお冥福を祈った。次回からは毎年11月第3日曜日・水道橋のここ「ホテル・メトロポリタンエドモント」で同期会を開催することが決まり散会した。



同期の会

### 高校18回生

(1966年11月昭和41年11月卒業)

#### 同期会

本郷中学校・高等学校教諭 小倉義雄

平成22年11月13日(土)に、還暦祝

いで30名ほど集まって同期会を行いました。但し、それ以来3年半ぶりに、駒込の磯太郎(会席料理店)にて同期会を実施しました。当日は、数名の人は早目に来て本郷学園を見学しました。会場では、恩師の先生(沢辺・坂井)を含め、22名の参加で行いました。まず逝去された同期生9名に黙祷をささげた後、乾杯をし、先生方の挨拶、同期生の近況報告を一人一人話をして、その後記念写真、校歌などを歌い非常に楽しいひと時を過ごすことが出来ました。後、希望者で2次会・3次会と皆で時を忘れ昔話などを語り親睦を計りました。我々も63歳になり、年金生活をしている者もあり、色々大変な時代になってきました。これからも亡くなった同期生の分まで元気に長生きしようとする

いました。また、本郷学園・同窓会が益々発展していくことを心より願ひ、同期会を終了しました。



同期の会

### 高校21回生

(1969年11月昭和44年11月卒業)

#### 還暦を祝う会

富岡俊明

私達は、還暦を迎えるに当たって

同期会を三菱養和会巣鴨スポーツセ

ンターにおいて、平成22年11月13日に開催しました。当日は27名の同期生及び板垣先生、鈴木先生、三浦先生も駆けつけて下さいました。

卒業以来42年ぶりに再会した学友達は、当時の黒髪もかなり消失し、或いは白髪となり、かつ、体形もかなり肥大化しておりましたので、最初は名前と顔が一致しない状況でした。しかしながら、当時の思い出などを話し合い、また、アルコールの力も入って、「彼はどうしている」、「あの時のことを思い出すと冷や汗が出る」などと話が盛り上がるにつれ、当時の学友が、時の経過を超えて再現しようでした。

会も押し詰まった時、テーブルを部屋の片隅に片付け、中央にマイクを設置して自己紹介を行いました。一人二分の予定が大幅に伸び、それぞれの挨拶に拍手が起こり、大いに盛り上がりました。閉会に当たり、校歌を歌い再会を誓い散会しました。

最後に今回の同期会の開催に当たり、同窓会の皆様のご協力に厚く御礼申し上げます。

### 同期の総 高校22回生

(1970年≡昭和45年≡卒業)

### 同期会

### 加納耕助

平成22年10月16日、三菱養和会スポーツセンターにて昭和45年(第22期生)卒業生が第1回目の「同期会の集い」を開催しました。

同窓会名簿をたよりに卒業生384名から住所の判明している約140名の方々に「同期会の集い」のお知らせを郵送しました。しかし仕事の事情、家庭の事情等で、第1回目としての参加人数は10名でした。

出席者10名の方々の顔も久しぶりに逢った為、全くわかりません。この本を見ている皆さんどうですか?誰が誰やら…

そりゃそうです、40年もたつていますから。会場で各自の名刺交換を

しましたが、仕事もさまざま。公務員、自営業等60歳になろうというのに皆元氣ハツラツです。建築関係の仕事についている人へ「今度家の修理頼むよ」なんていう会話も飛び交っていました。

当然懐かしい話も多く、2時間もあつという間に過ぎ、最後に第1回目の記念として本郷高校巣鴨口前で記念写真を撮りました。撮影後本郷高校構内にお邪魔しましたが、まるで様変わりしていました。

中学校からの一環教育、人工芝のグラウンド、大きくなった体育館、そして近々、デザイン科の建物と機械科の建物が壊され新しい建物になるとか。正門の名物、銀杏並木も2本しか残さないようです。(詳しくは本郷高校のホームページをご覧ください)

今後、「同期会の集い」はこの10名から出発して順次増えていけばいいな。22回生の中で、お知り合いの方がいましたら、22回生理事までは是非お

知らせ下されば幸いです。

クラスが違っても懐かしい話が満載です。次回の「同期会の集い」は還暦の後を予定しています。是非多くの皆様の参加をお待ちいたします。





本郷新聞OB会副会長  
新制新聞委員会第2代委員長

宇田川 健太

高校59回生  
2007年=平成19年=卒業

## 本郷新聞OB会 創設

「新旧」の親睦を深めるために――

本郷学園新聞委員会が、10年の活動休止期間を経て、平成15年に復活してから7年あまり、年数回のPC版と年2回前後のタブロイド版の発行を維持しながら、ここまで成長できたのは、新聞委員会OBとして実に喜ばしい限りであります。

その新制新聞委員会発足8周年の末広がりの方に、OB会組織を創設致しましたので、ここにお知らせ致します。

本郷学園新聞委員会には、前述のとおり10年の活動休止期間がありました。

新制新聞委員会以前の旧制新聞委員会とは連続性がありません。技術や伝統の継承は直接的にはなく、過去

に発行された新聞を頼りに、伝統ある本郷学園新聞を再現して参りました。OB会が、この断絶された10年間という深い溪谷の橋渡しになり、新旧OBの交流を生むきっかけ作りの場となれば幸いです。

また、本郷学園新聞は現在「委員会」の活動として発行されています。委員会ですと、数年間連続して所属するという記者の割合は、必然的に部活動よりも低くなります。

数十～百数十名の大所帯である本校の新聞委員会では、先輩から後輩へ技術を遍く伝承することはなかなか難しいといえるでしょう。

そこで、新聞の編集にせよ他の方面の技術にせよ、経験豊かなOBが組織的に技術指導や講演などを行い、現役生をサポートすることができれば、本郷学園新聞のさらなる広がりが期待できるのではないかと思います、この度のOB会創設に至りました。

既に第1回OB会総会を池袋にて、第2回OB会総会を巣鴨にて、それぞれ行いました。OBである我々は、互いの



第1回OB会懇親会后、会場(ヒューマックスパビリオン池袋サンシャイン60通り)前での集合写真。右から、揚俊太郎(高58)、岡部陽介(高62)、池田貴生(高57)、宇田川健太(高59)。

近況や、現役生の頃の新聞製作の話で大いに湧き、また現役生とも交流を深め、OB会創設の成果を早くも感じる事ができました。

今後は、さらにOB会の輪を広げること、そして現役生への具体的なサポートについて検討し、OB会の内容をさらに有意義なものにしていく所存であります。また、これをご覧になっている新聞委員会OBの皆様方、ぜひOB会本部へご連絡下さい。よろしくお願い致します。

なお、OB会では、散逸した本郷新聞の蒐集事業も行っております。お手元に新聞本紙(特に、平成初期のもの)がございましたら、ご一報下さい。

ホームページ：<http://honshinOB.org>  
連絡先：kouhrou@honshinOB.org



江川裕二

高校60回生

2008年=平成20年=卒業

## 漫画劇画部OB会活動報告

我々本郷学園漫画劇画部OB会は中高現役部の支援を目的に結成された団体です。各々が二学期に二回程度、気の合う仲間を誘いあつて現役部の活動を支援しに本郷を訪れています。さらに、文化系部活動最大の見せ場である本郷祭では、現役部の発行する「本郷本」に寄稿、製作作業の支援も行っており、夏休みから本郷祭にかけては大勢のOBで部活動がにぎわいます。また、本郷祭の打ち上げも現役部と合同で行っており、受験指導や進路相談などと合わせて、後輩たちにも大学

生というものを身近に感じてもらえればと思っています。

OB会独自の活動としては、まず年に二回を目安に発行している合同誌があり、年を経るごとに参加者が増え、知名度・体裁ともに立派なものになってきています。また、学生と社会人との交流の機会でもあるOB飲み会は、商業誌でプロとして活躍なさっている方が参加することもあり毎回大変な盛り上がりを見せます。とくに前回は、教育実習で本郷を訪れた先輩と当時の教え子が再会するという珍しい出来事もありました。OBがそれぞれの大学の漫画研究会(学漫)に所属しているため、当会がきっかけとなつて大学同士の交流や情報交換が行われており、学漫界での存在感を増しています。

去る12月28日に行われた忘年会では、急な開催だったにもかかわらず11名もの会員が参加してくれました。年末の昼間ということですが、逆にお酒の席をなくしたところ現役生が2

名ほど駆けつけてくれました。当日まで参加者の数がわからなかったため開店前のファミリーストランで団体席を確保するという現役時代の恒例行事も満喫し、お互いの近況報告や創作物の回し読みで同世代の創作活動に対する姿勢に大いに刺激を受けました。当初は昼飯会で終わる予定でしたが結局お好み焼屋での夕食会まで延長戦が続き、大学どうしの交流会の話し合いなどをして終わりました。

お互いの大学の話をしているのは、現役時代に自分たちで部活を切り盛りしようと悩み抜いたことが、大学でのサークル活動に活かされているということ。他の大学生が学生自治であるサークルの運営や人間関係に戸惑い、思考停止してしまう状況でも、現役時代から歴代の顧問の先生方に生徒自治という背伸びを許され、試行錯誤してきた当会のOB達にとっては過去に通つた道であり、それぞれのサークルの中心になって活躍している姿は大変誇らしく思います。

本郷生には興味を持ったことに自

分から食いついていくバイタリテイがあります。なので、後輩たちには在学中に色々なことで悩んでほしいと思います。目標のある人、きちんとものを考えている人の周りには必ず人が集まります。そして卒業後はそれぞれの形で本郷学園を支えてください。



高田隆義

高校15回生

1963年=昭和38年=卒業

## ラグビー部古賀浩二郎先生を 囲むOB会開催

「ドスン」「ドスン」。低く鈍い音がタヤみのグラウンドに響く身体と身体の

ぶつかり合いは、20回も30回も繰り返され、激しい練習は果てることなく、とっぷりと日が暮れるまで続けられていました。:

まだ戦後の爪あとを残す石ころだらけの荒れたグラウンドに体力の限界ギリギリまでも走り続ける若者たちの風景が、走馬灯のようによぎり、思い出が浮かび上がってきます。

あれから50年。楯円のボールに青春を掛けた闘魂逞しい生徒たちが、恩師・古賀先生を囲むOB会を開きました。この会合は2009年、ラグビー部の父母の会、OB会が本郷高校ラグビー部創部50周年祝賀会(ホテルメトロポリタン池袋にて、内外多数の著名人を招待し、580名にもなる出席者で盛り上がった大パーティーでした。)が開催された折、最古参のOBより草創期時代の仲間で、古賀先生を囲む会を継続したいと企画、実行されたものです。

2010年7月15日。この日集まったOBは20名。思い思いの話に花が咲き、時のたつのを忘れ、気がつけば皆、昔の名選手になっていました。

古賀先生は「長い教員生活の中で、この本郷時代が一番思い出深い、苦労もあつたが、遣りがいいのあるものでした。家内も本郷のラグビーが一番気持ちのよい試合をしていました、と懐かしがつており、来年の会合にはつれて来たい」と喜ばれておりました。

最後に初代本郷ラグビー部会長、現在、日本ラグビーフットボール協会理事、事務局長の岡本武勝氏(昭和36年卒業)が「古賀先生を囲み昭和34年卒、昭和38年卒までのラグビー部員が集まり、楽しい会が出来ました。これからもこの会を続けて行きますので、古賀先生はじめ皆さんも健康に気をつけて頑張つて下さい」と挨拶、最後に幹事の橋、池津、高田への慰労を頂き散会しました。

古賀浩二郎先生 1955年、24才の時、東京教育大学(現筑波大学)より本校の体育教師となり教鞭をとられました。当時、ラグビーをほとんど観たこともない生徒に、ラグビーの楽しさ、男らしさを体験させようと、難解なルールを簡素化し本郷ボールと名付け、授業にとり入れたところ、大変な人

ラグビー部創部50周年祝賀会  
ラグビーマガジン2009年6月号より



気となり、次第にラグビーを志す生徒が現れ、3年後(1958年)にラグビー部を創部、さらに2年後から2年連続、東京大会準優勝を成し遂げ名声を博しました。

「FC本郷50」シニアリーグ1部残留



野田悠二

高校24回生  
1972年=昭和47年=卒業

「FC本郷50」は50歳以上の本郷高校サッカー部OBチームである。平成22年度東京都シニアサッカーリーグ第一部は、4月4日(日)にスタートした。1部シニアリーグは10チーム総当りで、年間9試合を4月～11月までの長丁場で行われた。開幕戦は古豪の北区50で0-3と完敗だった。1部のスピードとテクニックに付いて行けなかった。我がチームは本年で4年目のチームで1部リーグは今年が始めてである。しかし、本郷高の負けじ魂と粘り強さで、どうか最終戦对新宿50を逆転の末3-2でしりぞけて1部残留を決めた。この試合は、負ければ7位で入替戦、勝てば5位残留と言ったまさに世紀の大一番だった。皆死に物狂いで戦った。本年

【リーグ表】

チーム名	A1	A2	A3	A4	A5	A6	A7	A8	A9	A10	勝点
高麗サッカークラブ A1	—	1 0 0	0 0 0	4 0 0	3 0 1	3 0 0	2 0 0	1 Δ 1	2 0 0	5 0 0	23
EDOMONS A2	0 ● 1	—	2 0 1	0 Δ 0	0 ● 1	2 0 0	3 0 0	2 0 1	1 Δ 1	2 0 1	17
東京北区シニアFC50 A3	0 Δ 0	1 ● 2	—	2 0 0	3 0 0	0 Δ 0	1 Δ 1	3 0 1	1 Δ 1	3 0 0	16
セレクションオトキオSC A4	0 ● 4	0 Δ 0	0 ● 2	—	2 0 0	0 ● 1	1 ● 2	2 0 0	1 0 0	3 0 0	13
FC本郷50 A5	1 ● 3	1 0 0	0 ● 3	0 ● 2	—	1 Δ 1	3 0 2	3 0 0	1 ● 2	1 0 0	13
渋谷区FCミドル50 A6	0 ● 3	0 ● 2	0 Δ 0	1 0 0	1 Δ 1	—	1 0 0	0 ● 2	1 Δ 1	3 0 0	12
新宿FCマエストロス50 A7	0 ● 2	0 ● 3	1 Δ 1	2 0 1	2 ● 3	0 ● 1	—	1 0 0	1 ● 3	4 0 0	10
四十雀クラブ東京50 A8	1 Δ 1	1 ● 2	1 ● 3	0 ● 2	0 ● 3	2 0 0	0 ● 1	—	2 0 1	1 0 0	10
桐蔭Ov50s A9	0 ● 2	1 Δ 1	1 Δ 1	0 ● 1	2 0 1	1 Δ 1	3 0 1	1 ● 2	—	0 ● 2	9
むさしのFCラジャッジョ A10	0 ● 5	1 ● 2	0 ● 3	1 ● 3	0 ● 1	0 ● 3	0 ● 4	0 ● 1	2 0 0	—	3

度の成績は4勝4敗1分、10チーム中第5位で終了する事が出来た。これもひとえに本郷高同窓会の皆様方の温かい応援の賜物と深く感謝申し上げます。今年度も体力増強・モチベーションの維持に務め、東京都シニアリーグ1部を死守する事をお誓いします。

◆ 第一章 名称及び位置 ◆

《名称》

第一条 本会は本郷学園同窓会という。

《位置》

第二条 本会は事務所を東京都豊島区駒込四丁目十一番一号  
学校法人 本郷学園内に置く。

◆ 第二章 目的 ◆

《目的》

第三条 本会は会員相互の親睦を深め母校の発展をはかることを目的とする。

《事業》

第四条 本会は前条の目的を達成するために次の事業を行う。

- (1) 会員の親睦会の開催
- (2) 会誌の発行
- (3) 母校の後援
- (4) 会員名簿の整備管理
- (5) ホームページの管理
- (6) その他前条の目的を達成するために必要な事業

◆ 第三章 組織及び役員 ◆

《会員》

第五条 本会は次の会員により組織する。

- (1) 旧制本郷中学校及び本郷高等学校卒業生
- (2) 本郷中学校卒業生及び旧制本郷中学校並びに本郷高等学校に在籍したことのある者で理事会の承認を得た者

《役員》

第六条 本会には次の役員を置く。

会長 一名、副会長 若干名、理事 各任期若干名、監事 二名

《役員選出》

第七条 前条の役員は次の方法により定める。

- (1) 会長は理事会において理事の互選により選出する。
- (2) 副会長は理事の中から会長の委嘱によつて定める。
- (3) 理事は各任期の中から選出し、総会の承認を得るものとする。ただし選出のない任期からの理事は会長が委嘱し、総会の承認を得るものとする。

(4) 監事は総会において会員の中から選出する。

《名誉会長及び顧問、相談役の設置》

- 第八条 本会に名誉会長及び顧問、相談役を置くことができる。二名誉会長は本郷学園理事長にこれを委嘱する。
- 三顧問は本郷学園名誉校長及び校長並びに本会会長経験者にこれを委嘱する。
- 四相談役は副会長、理事、監事の経験者の中より会長がこれを委嘱する。

《役員の仕事》

第九条 役員は次の任務を行う。

- (1) 会長は会を代表して会務を総括執行する。
- (2) 副会長は会長を補佐し会長事務を代行する。
- (3) 理事は理事会に出席して本会の運営に参画する。
- (4) 監事は会計を監査する。又、理事会及び運営委員会に出席し意見を述べることができる。
- (5) 理事及び監事は相互に兼ねることはできない。
- (6) 顧問、相談役は会長の要請により会議に出席する。

《役員の仕事及び解任》

- 第十条 役員の仕事は三年とする。ただし再任は妨げない。
- 二補充により選出された役員の仕事は三年間の当該任期の残任期間とする。
- 三前第一項、第二項にかかわらず、役員は次期役員の出日までは、なお、その任務を行う。
- 四会長は役員が同窓会の役員としてふさわしくない行為を行った場合、又は特別の事情がある場合には、副会長と協議のうえ当該役員を解任することができる。

◆ 第四章 会議 ◆

《会議》

第十二条 本会の行う会議は総会、理事会、運営委員会とする。

二会議の議長は会長がこれにあたる。

《総会》

第十三条 定期総会は毎年一回、事業年度終了後三か月以内に開催し、次の事項を審議し議決する。

- (一) 事業計画及び収支予算の決定

- (2) 会則の改正
  - (3) 理事の承認並びに監事の選出
  - (4) 事業報告及び収支決算の承認
  - (5) その他本会の運営に関する重要事項
- 二会長は理事会の議決により臨時に総会を招集することができる。

《理事会》

第十三条 理事会は会長の要請もしくは理事の過半数の請求により開催する。

二理事会は次の事項を審議し議決する。

- (1) 会長の選出
- (2) 第五条第2号に該当する会員の承認
- (3) 総会の議決した事項の執行
- (4) 総会に付議すべき事項
- (5) 運営委員会より付議された事項
- (6) その他総会の議決を要しない会務の執行に関する事項

《運営委員会》

第十四条 運営委員会は会長及び副会長、本会の事業を担当する理事で構成する。

二運営委員会は会長の招集によつて開催し、本会の日常の運営にあたる。

第十五条 第十二条第二項並びに第十三条第二項にかかわらず、緊急を要する事案は運営委員会において処理し、事後、理事会の承認を得るものとする。

◆ 第五章 事業及び議決 ◆

《事業の遂行》

第十六条 会長は、企画及び会誌の発行、会計、庶務等の副会長の担当を定め、かつ、これを補佐する理事を指名する。担当副会長は理事の協力を得て本会の事業を行う。

《事務取扱者》

第十七条 本会の事務を処理するため事務取扱者を置く。担当者は運営委員会委員の中より会長が委嘱する。

《議決》

第十八条 会員は総会において発言権、議決権を有する。

二総会、理事会の議決は出席者の過半数をもつて決する。可否同数の場合は議長が決める。

◆ 第六章 会計 ◆

《事業年度》

第十九条 本会の会計年度は毎年四月一日に始まり翌年三月三十一日に終わる。

《事業計画及び収支予算》

第二十条 本会の事業計画書及び収支予算書は会長が作成し、総会の議決を得なければならない。ただし総会までの間は理事会の議決によることを妨げない。

《事業報告及び収支決算》

第二十一条 本会の事業報告書及び収支決算書は、会長が事業年度終了後遅滞なく作成し、監事の監査を経たうえ、総会の議決を得なければならない。

《会計》

第二十二条 本会の経費及び事業資金は次をもつて充当する。

- (1) 入会金
- (2) 会員の年会費
- (3) 利息収入
- (4) 寄付金品

二いったん納入した金品は一切返還しない。

第二十三条 会員は年会費を二口式千円として二口以上を毎年納付するものとする。

二卒業時の入会金は壹万円とする。

◆ 第七章 会則の改正 ◆

第二十四条 本会則は総会において出席会員の三分の二以上の賛成を経て改正することができる。

◆ 付則 ◆

本会則は平成十五年六月二十二日より施行する。  
本改正会則は平成二十二年六月十九日より施行する。ただし第二十三条第一項については平成二十三年度より実施する。

以上

自・2011年4月1日 至・2012年3月31日

## 会員相互の意見と親睦

- 定期総会(会員全員) 〓日時…6月18日(土)15時。会場…母校会議室
- 会員親睦会(会員全員) 〓総会後の懇親会 〓日時…6月18日(土)17時。会場…三菱養和会「巣鴨スポーツセンター」内。会費制
- 理事会(理事68人) 〓日時…4月16日(土)と1月21日(土)いずれも15時。会場…母校会議室
- 理事懇親会 〓日時…4月16日(土)17時。会場…巣鴨・泰平飯店。会費制
- 理事新年会 〓日時…1月21日(土)17時。会場…未定。会費制
- 本郷祭(学園文化祭)同窓会展示教室(ブース)の開設(会員全員) 〓開設日…9月17日(土)、18日(日)
- 本郷祭同窓会サロン開設(会員相互の親睦・懇談) 〓日時…9月18日(日)14時～16時。会場…三菱養和会「巣鴨スポーツセンター」内。費用…同窓会負担(会費1人1,000円を徴収し費用に繰り入れ)

## 還暦の集い 〓 還暦をむかえる同期会の開催支援ならびに同期会開催支援

- 成人の集い 〓 卒業2年後に成人となるお祝の同期会「成人の集い」を開催。第4回(高校61回生(2009年)平成21年) 〓 3月卒業) 〓 日時…5月21日(土)15時。会場…三菱養和会「巣鴨スポーツセンター」内。費用…学園と同窓会で二分分し負担(会費1人1,000円を徴収し費用に繰り入れ)

## 会誌の発行

- 「銀友」40号 〓 発行日…5月1日。発行部数…15,000部。A5版

## 母校の後援

- 各分野における全国規模の大会等で活躍した生徒を表彰
- 卒業生全員に記念品贈呈
- 学業優秀な卒業生に「同窓会賞」贈呈
- 中学校教養講座の支援

## 会員名簿の管理

- 住所変更などの各種管理

## ホームページの管理

- 内容の充実
- プロバイダ契約継続

## その他の事業

- 学園との懇親会開催 〓 費用…学園と同窓会が出席者数に応じて負担
- 入学・卒業式、体育祭など学校行事への役員代表の出席、参観

## 会議の開催

- 運営委員会 〓 日時…4月16日(土)、5月21日(土)、6月18日(土)、7月16日(土)、9月17日(土)、10月15日(土)、11月19日(土)、12月17日(土)、1月21日(土)、2月18日(土)、3月17日(土) 〓 いずれも原則14時。会場…母校会議室
- 第5回「成人の集い」(高校62回生(2010年)平成22年) 〓 3月卒業) 〓 実行委員会 〓 日時…11月19

● 第7回「成人の集い」  
 〈高校64回生(2012年)平成24年(3月卒業)〉実行委員会結成日 3月15日(木) 13時。会場…母校会議室  
 日(土)、2月18日(土) 13時。会場…母校会議室

2011年度収支予算案  
 2011年4月1日～2012年3月31日

科 目	収 入	科 目	支 出
前年度繰越金	1,914,394	総 会 費	0
新卒者同窓会入会金	3,000,000	会誌発行費 (15,000部)	2,700,000
同窓会年会費	2,700,000	銀友製作費	1,400,000
成人の集い	370,000	宛名印刷費	130,000
〔会 費	〔 100,000	ラッピング費	270,000
〔 学園側負担金	〔 270,000	発送費	820,000
本郷祭同窓会サロン費	70,000	編集諸経費	80,000
雑収入	5,000	行事部門	2,450,000
		成人の集い (第4回)	700,000
		〃 (第5回)	20,000
		本郷祭同窓会サロン費	280,000
		本郷祭同窓会出展費	10,000
		同期会開催支援費 (活性化)	100,000
		活躍した生徒への激励費	600,000
		卒業生記念品費	300,000
		同窓会賞費	40,000
		学園懇親会費	350,000
		〔父母の会交歓会費	〔 50,000
		会員名簿保守管理費	250,000
		ホームページ年間契約料	20,000
		運営委員会交通費補助	180,000
		事務費	170,000
		〔用品費	〔 120,000
		〔その他	〔 50,000
		予備費	100,000
		支出合計	5,870,000
		次年度繰越金	2,189,394
合 計	8,059,394	合 計	8,059,394

自・2010年4月1日 至・2011年3月31日

## 会員親睦会等の開催

- 第3回「成人の集い」(高校60回生(2008年)平成20年)3月卒業)の日時・5月15日(土)15時。会場・三菱養和会「巣鴨スポーツセンター」内。参加者数・119人(60回生93人、理事長・校長・担任教諭など学園関係者14人、同窓会関係者12人)。費用・学園と同窓会で二分し負担(会費1,000円を徴収)
- 理事会後の懇親会開催の日時・4月17日(土)17時。会場・「巣鴨スポーツセンター」内。会費5,000円
- 定期総会後の懇親会開催の日時・6月19日(土)17時。会場・「巣鴨スポーツセンター」内。会費5,000円
- 本郷祭(学園文化祭)同窓会展示教室(ブース)開設日・9月25日(土)、26日(日)本郷祭同窓会懇親会(サロン)の日時・9月26日(日)14時～16時。会場・「巣鴨スポーツセンター」内。参加者数・70人。費用・同窓会負担(会費1,000円を徴収)
- 理事会後の新年会開催・1月15

日(土)17時。巣鴨・泰平飯店。会費5,000円

- 松平頼武学園理事長「旭日小綬章」受賞祝賀会開催の日時・2月20日12時。会場・九段・アルカディア市ヶ谷(私学会館)。参加者数141人(来賓25人、同窓生116人)。会費8,000円(経費不足分は同窓会負担)
- 還暦の集いなど同期会の開催支援  
 〓 高校21、22回生

## 会誌の発行

- 「銀友」39号発行日・6月1日。発行部数・15,000部。A5版

## 母校の後援

- 英文「本郷のあゆみ」及び参考資料を製作・寄贈・製作部数各500
- 各分野における全国規模の大会等で活躍した生徒を表彰・8件57人
- 卒業生全員に記念品贈呈・印鑑を312人に
- 学業優秀な卒業生に「同窓会賞」贈呈・図書カードを10人に
- 中学校教養講座の支援

## 会員名簿の管理

- 住所変更などの各種管理・業者に委託

## ホームページの管理

- システム更新
- プロバイダ契約継続

## その他の事業

- 学園との懇親会開催・同窓会より12人参加。日時・11月24日(水)18時より。会場・巣鴨・中国料理「知味采」。学園側からは理事長、常務理事、事務職員、校長、副校長、高・中教頭、母校OB教諭(同窓会担当)が参加。費用・学園と同窓会が出席者数に応じて負担
- 入学、体育祭など学校行事への役員代表の出席、参観
- 会議の開催
  - 定期総会・日時・6月19日(土)15時。会場・母校会議室
  - 理事会・日時・4月17日(土)、1月15日(土)以上15時。会場・母校会議室

● 第4回「成人の集い」  
 〈高校61回生(2009年) 平成21年 3月卒業〉実行委員会 日時 11月20日(土)、2月19日(土) 13時。会場 母校同窓会室

● 第3回「成人の集い」  
 〈高校60回生(2008年) 平成20年 3月卒業〉実行委員会 日時 4月24日(土) 13時。会場 母校同窓会室

● 運営委員会 日時 4月17日(土)、5月15日(土)、6月19日(土)、7月17日(土)、9月18日(土)、10月16日(土)、11月20日(土)、12月18日(土)、1月15日(土)、2月5日(土)、3月19日(土) 以上 原則14時。会場 母校同窓会室ならびに会議室

2010年度収支決算報告書  
 2010年4月1日～2011年3月31日

科 目	収 入	科 目	支 出
前年度繰越金	6,856,756	総 会 費	45,937
新卒者同窓会入会金 (312人)	936,000	会誌発行 (15,000部)	2,572,847
同窓会年会費 (1,020人)	2,700,590	銀友製作費	1,354,075
成人の集い (第3回)	397,817	宛名印刷費	110,863
会 費 (119人)	119,000	ラッピング費	239,794
学園側負担金	278,817	発送費	805,650
本郷祭同窓会サロン費 (70人)	70,000	編集諸経費	62,465
叙勲祝賀会会費	972,000	行事部門	2,006,726
松平基金	200,000	成人の集い (第3回)	688,651
雑収入 (預貯金利息等)	3,482	〃 (第4回)	21,690
		本郷祭同窓会サロン費	278,680
		本郷祭同窓会出展費	9,644
		同期会開催支援費 (活性化)	67,606
		活躍した生徒への激励費	410,000
		卒業生記念品費 (312人)	156,000
		同窓会賞費 (10人)	40,000
		学園懇親会費	334,455
		父母の会交歓会費	0
		会員名簿保守管理費	287,796
		通信費	42,200
		ホームページ年間契約料	18,000
		一般通信	24,200
		印刷費 (一般)	53,771
		運営委員会交通費補助	184,000
		振り込み手数料	12,705
		雑 費	164,354
		事務消耗品費	95,896
		コピー等	9,970
		その他	58,488
		英文本郷のあゆみ製作費	1,529,300
		名簿管理ソフト作成費	200,000
		予備費	3,122,615
		花園への激励費	300,000
		叙勲祝賀会費	2,822,615
		支出合計	10,222,251
		次年度繰越金	1,914,394
合 計	12,136,645	合 計	12,136,645

預貯金・現金明細

銀行・他	預貯金残高	定期預金	次期繰越金
三菱東京 UFJ 銀行	1,846,552	0	1,914,394
郵貯銀行	40,882		
現 金	26,960		
合 計	1,914,394	0	1,914,394

## 2010年度表彰記録

各分野における全国規模の大会等で活躍した生徒57人(8件)を表彰

1. 第5回全国高等学校情報科学競技大会「個人 ITパスポート部門」  
第1位:藪雅文君  
(1人:2010年4月17日贈呈)



2. JOCジュニアオリンピックカップ「第34回全日本高校ボウリング選手権大会」出場:齋藤眞秀(140人中20位)、岡田晃宏君
3. 「アジア・インターシティ高校陸上競技大会」出場:根岸紀仁君(「400mリレー」優勝、「100m」6位入賞、「200m」4位入賞)  
(以上2件3人:2010年7月6日贈呈)



4. 第37回「全日本中学校陸上競技選手権大会」出場:重松英憲君(「200m」(予選敗退)、小路直輝君(「走幅跳」(予選敗退)  
(2人:2010年8月17日贈呈)



5. 「全国高等学校パソコン甲子園2010」出場:藪雅文、櫻井勇輝君  
(2人:2010年10月30日贈呈)



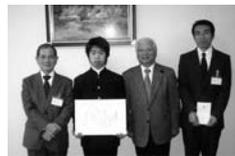
6. 東京都第1地区代表として「第90回全国高等学校ラグビーフットボール大会」出場(1回戦敗退):尾形勇人、上山智弥、白神洵、吉田貴宏、小川翔平、櫻井寛己、白石拓馬、宮腰健吾、河合奨、木原健裕、伊藤洋輔、高橋仁志、長谷部駿、渡雄樹、田中秀昇、篠崎宏洋、泰松遼、佐藤耀、武部将司、中澤翔伍、柚木恵介、香中天晴、黒木勇志朗、藤井英貴、山岡篤樹、武信真二、辻田孝興、蔵雄亮、松本晨、玉川光太郎、齋藤怜央、高比良直樹、堀倫徳、見浪友哉、古賀田健太、鳥巢泰毅、藤森良太、大矢知亮、中谷惇、松尾海生、宮本真実、若林稜大、小谷田宏紀、佐藤史也、渡邊紘也、荻野夏樹君  
(46人:2010年11月20日贈呈)



7. 平成22年度全国高等学校総合体育大会「フィギュア競技」出場:磯崎大介君(34人中13位)  
(1人:2010年12月11日贈呈)



8. 第60回全国高等学校スキー大会出場:小沢陽君(ノルディック男子15kmフリー177人中164位、10kmクラシカル182人中168位)。竹内雅浩君  
(2人:2011年1月29日贈呈)



## 2010年度定期総会報告

小室 能広 高校8回生(1956年=昭和31年=卒業)

日 時…2010年6月19日  
 会 場…本郷学園本館2階会議室  
 出席者…33名

野田悠二(高校24回生)1972年卒業)理事が司会を務め総会の開会を宣言。

議事に先立ち、物故者を黙祷を捧げた。  
 この後の「あいさつ」では、まず北原福二校長が「国立大学、難関私大への合格率が右肩上がりであり安定した実績をあげている」と進学状況を紹介し、さらに学園の危機管理にふれ「大震災に遭った場合、最低でも3日間の食料等を確保してある」と報告した。

次いで、山内秀夫(高校3回生)1951年卒業)前会長に続き、南谷修(高校8回生)1956年卒業)新会長は、「山内前会長の残任期間、2年間お引き受けします」と決意を述べ、松平理事長が示す「スマートであれ」、「紳士たれ」との指針を実行する生徒の姿をおし、そうした校風を支援していく同窓会でありたい、と抱負を語った。

会則に従い南谷会長が議長を務め、書記に小室能広副会長、関塚正治(高校20回生)1943年卒業)副会長を指名し、議事に入る。

**第1号議案 同窓会会則改正の件**

議長から「銀友」第39号28、29頁に示す「本郷学園同窓会会則(改正案)」が提案され、市倉洋二(高校12回生)1960年卒業)副会長による説明を受け、これを全会一致で承認した。

**第2号議案 理事・役員人事案の件**

議長から報告された「銀友」第39号37頁に示す「本郷学園同窓会役員(案)」・印の各氏の理事就任について、これを全会一致で承認した。

**第3号議案 2009年度事業報告の件**

議長から「銀友」第39号32、33頁に示す「2009年度(平成21年)度事業報告」が提案され、秋元幹夫(高校7回生)1955年卒業)副会長による報告を受け、これを全会一致で承認した。

**第4号議案 2009年度決算報告の件**

議長から「銀友」第39号33頁に示す「2009年(平成21年)度収支決算報告書」が提案され、齋藤毅(高校13回生)1961年卒業)副会長による報告を受け、これを全会一致で承認した。なお、議長の指名により篠喜三郎(高校6回生)1954年卒業)監事が4月7日(水)に高田隆義(高校15回生)1963年卒業)監事とともに行った平成21年度会計監査について「会計処理は適切であった」と報告し、これを了承した。

**第5号議案 2010年度事業計画(案)の件**

議長から「銀友」第39号30、31頁に示す「2010年度事業計画案」が提案され、秋元幹夫副会長による説明を受け、これを全会一致で承認した。

**第6号議案 2010年度予算(案)の件**

議長から「銀友」第39号31頁に示す「2010年度収支予算案」が提案され、齋藤毅副会長による説明を受け、これを全会一致で承認した。

**第7号議案 個別事業報告の件**

議長の指名により同窓会誌「銀友」発行について市倉洋二副会長、同窓会活性化対策について井上栄三郎(高校10回生)1958年卒業)副会長、ホームページ管理について野口貴洋(高校35回生)1983年卒業)理事がそれぞれ報告し、これを了承した。

以上にて議事を終了した。

2010年度

# 本郷祭報告

市倉洋一

(高校12回生 1960年卒業)

「たちあがれ 本郷」をテーマに昨年の本郷祭(文化祭)は、9月25日(土)、26日(日)の2日間にわたって行われました。テーマについて生徒会長は「草食系男子とは違った、男子校ならではの、芯のある本郷男児の風貌を本郷祭全体を通して感じ取っていただきたい」と。生徒たちの自主的な企画、運営が本郷祭の伝統です。この本郷祭でも、実行委員会のもとで準備が進められ、本郷中学校を目指す小学生対象の学校説明会や模擬授業、それに各クラブが出店する模擬店の本郷市グランプリ、後夜祭開催などの新企画にも取り組んでいました。ちなみに本郷市グランプリは、「ポテト・かき氷」で勝負した硬式野球部が獲得しました。



さて、各教室では例年通り、高校生を除く高中の全クラスや各クラブが展示やイベントを意欲的に展開し、体育館、グラウンド等でも運動部の招待試合が行われるなど、終日にぎわいを見せていました。

同窓会も35館2階の教室で展示を行いました。卒業アルバムをはじめ、母校の歴史をたどる資料やグッズを陳列したほか、過去3回の「成

人の集い」の写真や全国規模の大会に出場した生徒たちの写真入り一覧をパネル展示しました。また、毎年春に行われている「国展」絵画部門で連続入選している向井史朗さん(高校12回生 1960年卒業)が、引き続き作品2点を展示してくださいました。

26日午後には、恒例となっている本郷祭同窓会懇親会(サロン)が、三菱養和会・巣鴨スポーツセンター「レストランパルテール」で開催され、同窓生たちの歓談の輪が広がっていました。



本郷学園同窓会役員

(名誉会長、顧問、相談役を含む) 任期は2012年度総会まで

名誉会長

松平 頼武 (理事長)

会長

南谷 修 高校8回 1956(昭和31)年卒

副会長

玉川 昭 中学19回 1945(昭和20)年卒

望月 敏郎 高校3回 1951(昭和26)年卒

秋元 幹夫 高校7回 1955(昭和30)年卒

小室 能広 高校8回 1956(昭和31)年卒

井上栄三郎 高校10回 1958(昭和33)年卒

市倉 洋一 高校12回 1960(昭和35)年卒

斉藤 毅 高校13回 1961(昭和36)年卒

関塚 正治 高校20回 1968(昭和43)年卒

田中 良一 高校24回 1972(昭和47)年卒

監事

篠 喜三郎 高校6回 1954(昭和29)年卒

高田 隆義 高校15回 1963(昭和38)年卒

顧問

北原 福二 (校長)

中村 允 中学13回 1940(昭和15)年卒

山内 英夫 高校3回 1951(昭和26)年卒

相談役

宮本 幸雄 中学15回 1942(昭和17)年卒

植松 隆吉 高校3回 1951(昭和26)年卒

理事

高野 正美 中学17回 1944(昭和19)年卒

岡田 光正 中学18回 1945(昭和20)年卒

前田 和男 中学18回 1945(昭和20)年卒

野木 惣市 中学19回 1945(昭和20)年卒

田島 利男 中学20回 1947(昭和22)年卒

佐治 栄一 高校1回 1949(昭和24)年卒

地曳 秀雄 高校3回 1951(昭和26)年卒

栗原 廣太郎 高校6回 1954(昭和29)年卒

新澤 米次 高校8回 1956(昭和31)年卒

岡本 信也 高校10回 1958(昭和33)年卒

久保 國男 高校12回 1960(昭和35)年卒

熊木 宏治 高校12回 1960(昭和35)年卒

山本 達雄 高校12回 1960(昭和35)年卒

阿出川 信夫 高校13回 1961(昭和36)年卒

杉本 繁 高校13回 1961(昭和36)年卒

池田 雅彦 高校14回 1962(昭和37)年卒

園田 一郎 高校17回 1965(昭和40)年卒

小倉 義雄 高校18回 1966(昭和41)年卒

山際 幸雄 高校18回 1966(昭和41)年卒

梶 徳治 高校20回 1968(昭和43)年卒

野水 国一 高校20回 1968(昭和43)年卒

富岡 俊明 高校21回 1969(昭和44)年卒

中田 守善 高校21回 1969(昭和44)年卒

赤井 健郎 高校22回 1970(昭和45)年卒

加納 耕助 高校22回 1970(昭和45)年卒

染谷 幸雄 高校22回 1970(昭和45)年卒

伊藤 豊 高校26回 1974(昭和49)年卒

立入 健司 高校26回 1974(昭和49)年卒

平野 隆之 高校26回 1974(昭和49)年卒

佐藤 修一 高校31回 1979(昭和54)年卒

遠藤 千秋 高校33回 1981(昭和56)年卒

山本 一博 高校34回 1982(昭和57)年卒

野口 貴洋 高校35回 1983(昭和58)年卒

佐藤 和明 高校39回 1987(昭和62)年卒

移川 真明 高校42回 1990(平成2)年卒

下村 大樹 高校45回 1993(平成5)年卒

野村 竜太 高校46回 1994(平成6)年卒

荻山 温夫 高校56回 2004(平成16)年卒

池田 貴生 高校57回 2005(平成17)年卒

金尾 晋一郎 高校58回 2006(平成18)年卒

黒部 直樹 高校58回 2006(平成18)年卒

御子柴 怜志 高校58回 2006(平成18)年卒

岡本 健太郎 高校59回 2007(平成19)年卒

高宮 成将 高校59回 2007(平成19)年卒

田中 大貴 高校59回 2007(平成19)年卒

石田 武 高校60回 2008(平成20)年卒

塩野 智也 高校60回 2008(平成20)年卒

西村 友吾 高校60回 2008(平成20)年卒

宮島 大貴 高校61回 2009(平成21)年卒

佐藤 明彦 高校61回 2009(平成21)年卒

柳田 将 高校61回 2009(平成21)年卒

松井 洋輔 高校61回 2009(平成21)年卒

吾郷 友紀 高校62回 2010(平成22)年卒

山田 駿 高校62回 2010(平成22)年卒

若林 司 高校62回 2010(平成22)年卒

。印は2011年度総会で承認が必要な理事

# 学園便り

## 本郷高校 2011年度大学入試合格実績

大学名	現役	浪人	計
国公立			
東京	3	2	5
京都	1	1	2
一橋	1		1
東京工業	5		5
北海道	1	1	2
東北	1		1
筑波	2		2
千葉	1	1	2
埼玉	2		2
東京外国語	1	1	2
東京農工	3	1	4
電気通信	5	1	6
首都大東京	2		2
横浜国立	2		2
東京海洋	2		2
弘前		1	1
山形	1		1
群馬	1		1
防衛	1		1
防衛医科	9	2	11

大学名	現役	浪人	計
私立			
早稲田	59	20	79
慶応義塾	27	13	40
上智	16	4	20
東京理科	46	18	64
明治	46	21	67
青山学院	16	6	22
立教	23	9	32
中央	34	7	41
法政	20	18	38
学習院	6	3	9
成蹊	9	3	12
成城	1	2	3
明治学院	10	6	16
日本	33	20	53
専修	16	10	26
東洋	5	3	8
駒澤	7	3	10
獨協	2		2
國學院	4	4	8
武蔵	11	6	17
神奈川	6		6
玉川	4	5	9
東海	5	1	6
亜細亜		1	1
帝京		3	3
国士舘		1	1
拓殖		1	1
東京経済	13	1	14
国際基督教	1		1
東京都市	2		2
芝浦工業	27	11	38
麻布	1		1
北里	4	2	6

大学名	現役	浪人	計
私立			
杏林		3	3
工学院	1	1	2
埼玉医科		1	1
順天堂	1	3	4
昭和	1	2	3
聖マリアンナ医科	2	1	3
創価	1		1
大正	1	1	2
高千穂		2	2
千葉工業	1	1	2
東京医科		1	1
東京工科		1	1
東京工芸	3		3
東京慈恵会医科	2	1	3
東京電機	9		9
東京農業	3	6	9
東京薬科	2	1	3
東邦	8	2	10
獨協医科	1	2	3
二松学舎	2		2
星薬科	3		3
武蔵野	1	1	2
武蔵野美術		1	1
明治薬科	1	1	2
明星		3	3
目白		1	1
立正	1		1
流通経済	1		1
岩手医科		1	1
愛知医科	1		1
藤田保健衛生		1	1
酪農学園		1	1
日本文化		1	1

### 2010年度退職教職員

理 科 瀧本 家康  
 情 報 伊藤 豊  
 英 語 近藤 正和

2011年4月13日現在

## 本郷珍妙教授譚

～近衛先生と徳川先生～



社会部元部長 池田 貴生

高校57回生(2005年=平成17年=卒業)

堪へ難キヲ堪へ忍ヒ難キヲ忍ヒ云々。

桜花咲き誇る候、私用にて東京中を車で移動中、たまたま日本武道館を通過しました。あの頃も、まさにこんな感じでした。人々は、花見の宴会に酔いしれていました、至極当然のこと。松平頼明校長先生も本郷学園近くの染井村へ、近衛先生と徳川先生を招き、3人のささやかな宴が開かれました。

「公、いかがですか?」

「満開ですな」

「侯は?」

「むしろ、葉桜が楽しみですぞ」

そのたった4センテンスで1時間の宴はゆったりと幕を下ろしました。

その年の桜が散ったのは、季節はずれの8月半ば、あの先生方の宴から4ヶ月。人々は永い桜花を謳歌しすぎたため、その落胆振りは甚だしいものでした。

「なぜ、あのときに即座に正しい情報を我々臣民に下さなかったんだ」

楽しい宴は、一瞬にして怒号へと変わりました。正しい情報を即座に下すことのできたはずの新聞。桜花謳歌す4ヶ月間は、数億枚の花びらが舞い散る予兆だったのかもしれませんが。近衛先生はこの責任を負って巢鴨へ行くことを拒否、徳川先生はそこから半世紀の長きにも互り葉桜を育てました。

新聞、後に旧聞、珍聞漢文…

いにしへの みちをききても となえても  
わかおこなひに せすはかひなし

謹んで本郷の平なる御玉照御御神様に申し上げます。検閲をお辞め下さい。虚像の盛花よりも未来の葉桜に御座居ます。どうぞお目醒め下さい。恐惶謹言。

～九段を通過した折に思った由無しごと

# 本郷学園同窓会会費納入者一覽

中3回1 高市章

中4回1 亀甲勲

中5回1 石井千里

中6回1 佐原雄次郎

中7回1 笹岡武徳

中8回3 鈴木貞夫・谷崎丈夫・  
長嶺金次郎

中9回2 有賀活郎・大塚秀太郎

中10回3 小泉進・田口赫郎・  
永井吉男

中11回7 市川雄一・上田義雄・  
木村善男・高橋耕一・  
塚田芳雄・中野武正・  
水谷郁夫

中12回9

岩本寿尚・石原豊英・  
河北展生・釵持行雄・  
後藤嘉徳・坂口甫・  
山田英彌・吉田正吾・  
小松昭

中13回11

阿部敏一郎・石川正達・  
太田恭二・景山正隆・  
黒鳥四朗・小森為郎・  
鈴木和男・橘正道・  
寺門務・中村允・山口一弘

中14回6

尾立維久・柴崎甲子夫・  
多賀一郎・藤井稔・  
堀江伸美・森本三郎

中15回14

阿部敏秋・荻原久雄・  
太田年三・金井格・  
勝敬二・竹中節男・  
土屋健人・中村美登・  
根本卓光・野村秀二・  
萩原友郎・宮本幸雄・  
吉田幸之輔・吉田正  
天津泰三・加瀬量次・  
河村旭・木村康夫・  
小永井暹・白井明・  
高橋璋守・田中凡夫・  
永田了・中野博・  
野尻利祐・樋代幸雄・  
森恭久・鶴見俊一

中16回14

中17回20

阿出川昭治・按田仁三郎・  
秋田禮一・乙部邦壽・  
小川清・小倉高規・  
尾前広・佐藤元徳・  
齐田貢一・下村多気夫・  
新谷卓司・高野正美・  
田中章治・田中稔・  
田中裕一・立山文男・  
町田滋・水田裕昭・  
山口登・蕨清平

中18回44

新井義雄・新井保文・  
青戸将・磯川清和・  
磯野泰夫・今里隆・  
宇田川孝一・榎本輯次・  
岡田光正・大沢善和・  
加藤宣夫・笠原栄治・  
菊地熙夫・北村廣三郎・  
後藤良一・佐々木一昭・  
志田芳久・清水正美・  
島田公雄・杉原繁夫・  
菅野英夫・鈴木卓三・  
妹尾尚・高橋三郎・  
高桑益行・鳥飼義二・  
友安昭治・成瀬隼人・  
西野重義・中山正・  
仲摩邦夫・野本昭・  
長谷川忠也・馬場隆・  
服部定善・檜垣順次

## 中19回27

松永昭二・松廣翠・  
宮田昭平・武藤泰夫・  
森正徳・矢部博康・  
渡部豊一・渡辺信夫

阿出川義男・新井忠彦・  
浅原義久・板倉一典・  
岡田貢一・桶川芳雄・  
太田健三・大久保武司・  
柏原英一・菊田勇・  
下川敬朗・重永政夫・  
鈴木孝一・玉川昭・  
高三郎・高橋實・  
滝田智久・永井四郎・  
西村努・野木惣市・  
長谷川広司・保谷六郎・  
増田速水・山崎達司・  
山本巖・築尚・横田文男

## 中20回18

西村和男・大屋忠・  
大塚康夫・倉田桂二郎・  
佐藤昌雄・鈴木健之・  
田島利男・鶴岡俊雄・  
中島敬太郎・羽山健児・  
橋本公成・久永幸隆・  
皆川敬次・山下保次・  
菊入喜三郎・鈴木三好・  
藤原利彦・宮本良一

## 中21回17

阿知波健・市橋光雄・

## 中22回5

板倉厚・大下晃・  
大矢和夫・柄澤喜市・  
古門敏郎・小林國雄・  
田中一好・外内悦雄・  
中林商蔵・二宮重恒・  
古澤秀信・星野昌弘・  
横澤邦彦・田中昭二・  
白岩幸雄

井筒千秋・須田光夫・  
中原豪彦・野々村長三・  
福沢昇

## 高1回2

相川厚・堀井幸次郎

## 高2回12

小倉雅文・坂野重一・  
櫻井泰・稲田稔・  
清水真太郎・豊嶋敬司・  
中村嘉宏・西島成一・  
羽生銚佑・浜野清隆・  
宮入貞雄・廣瀬六郎

## 高3回20

石川達夫・石塚豊・  
奥平博一・大部淳夫・  
志野原三津夫・小浜卓司・  
佐々木三郎・齊藤邦衛・  
坂田実・地曳秀雄・  
高橋正光・長崎一・  
根本強・野口多喜男・  
平子浅雄・光安伸夫・  
望月敏郎・山口洋司・

## 高4回3

山内英夫・吉田孝光  
八嶋政臣・渡辺武男・  
佐々木直剛

## 高5回9

井沢清・市村近・  
梶野伸二・片桐幸一郎・  
島崎雄司・田畑光利・  
宮坂貢司・影山弘・  
前田武彦

## 高6回37

稲垣泰輔・岩崎雄蔵・  
池内春俊・内田孝二・  
奥村茂・小形祐一・  
小椋一・柏村喜徳郎・  
蔵田尚・駒井隆行・  
後藤順夫・小林金則・  
小林秀行・佐瀬友貞・  
篠喜三郎・霜越佑・  
関貞三・仙波忠志・  
高橋民次郎・高木桂三・  
谷澤文雄・田口健次・  
津久田愛之助・寺田栄一・  
中山壽夫・中村義一・  
中里盛次・根立光夫・  
松ヶ谷利康・松本易夫・  
松本幸司・前田明男・  
渡辺勝・渡辺昭義・  
香森哲也・高橋利彰・  
久保田義喜



高  
22  
回  
18

大塚 一郎・大野 英治・  
加田 幹雄・梶 徳治・  
木島 勝美・工藤 一郎・  
後藤 文雄・小林 基展・  
齋藤 盛泰・坂井 秀雄・  
酒井 完治・酒井 孝一・  
新発田 和敏・須賀 一夫・  
関塚 正治・瀬崎 正憲・  
津田 隆・戸張 友晴・  
中野 正博・西原 薫・  
延島 慎一郎・堀部 雅美・  
氷見 隆・蛭田 要司・  
平塚 孝・古川 和夫・  
古島 英俊・松原 茂・  
森壽久・森尻 和夫・  
森田 知男・山下 定男・  
矢代 順一・良川 眞・  
小菅 邦雄

高  
21  
回  
16

荒井 章登・加藤 健二・  
菊地 正美・黒杉 寿博・  
砂田 俊雄・杉山 利博・  
鈴木 英世・鈴木 斉・  
月居 潤・豊田 康徳・  
中田 守喜・早川 盛男・  
檜山 隆史・小野 寺清二・  
森田 議雄・矢沢 秀治・  
赤井 健郎・覆沢 敏明・  
遠藤 達哉・岡村 光雄

高  
26  
回  
15

小川 良夫・大惠 淑行・  
加納 耕助・木下 寛明・  
工藤 勝章・島田 稔・  
鈴木 正治・関山 正雄・  
瀬賀 春雄・染谷 幸雄・  
細根 常男・松井 重久・  
森田 茂・若杉 清和  
池野 直樹・太田 治・  
鹿島 茂夫  
高 24 回 10  
関田 晃・掛川 敏行・  
田中 良一・寺田 正美・  
中村 敬司・野田 悠二・  
日高 詳介・松島 和己・  
前川 定男・峯岸 孝次  
高 25 回 9  
井口 茂雄・栗山 孝治・  
田島 秀行・千野 邦雄・  
中田 宗喜・長谷川 幸雄・  
松崎 敏弘・山口 登・  
吉波 行男  
高 23 回 3

伊藤 正彦・伊藤 豊・  
稲田 俊和・笹沼 博之・  
相模 明男・柴 安弘・  
戸部 庄次・中沢 哲次・  
中田 久人・庭野 毅・  
花島 良晴・平野 隆之・  
堀 義一・松平 善明・  
溝口 清人

高  
27  
回  
8

安部 昌治・稻垣 登・  
岩崎 充晃・河野 哲史・  
小林 正美・佐藤 吉伸・  
鈴木 利一・高橋 伸治  
高 28 回 9  
井口 隆・岡野 智彦・  
加藤 好男・黒沢 邦夫・  
小林 博貴・須藤 博忠・  
田中 実・松井 伸彦・  
山本 和弘  
高 29 回 5  
伊東 史郎・飯泉 彰裕・  
香川 耕二・菅野 弘一・  
丹野 修辞  
高 30 回 2  
宮本 茂治・川崎 雅弘  
高 31 回 8  
荒谷 繁明・石坪 英貴・  
佐藤 修一・富永 浩伸・  
厩 溪文有・橋本 尚弘・  
山畑 邦裕・吉田 法夫  
高 32 回 6  
小池 治・竹内 博輝・  
永堀 義秀・林 敏明・  
三井 良文・三友 宏樹  
高 33 回 16  
青木 和夫・天沼 嘉章・  
磯田 浩之・岩田 実・  
遠藤 千秋・小口 邦夫・  
斎藤 卓・高橋 秀明・  
滝本 学・遠山 悦夫・  
戸谷 庸克・中野 一美

西洋一・福島浩・

吉田浩久・吉田秀樹

高34回6

小林晋一郎・日高裕明・

平澤淳・宮崎雄一・

矢島義浩・渡辺欣也

高35回10

藤本由紀夫・阿部豊・

山崎剛・諸石貴生・

花輪幸男・茂呂孝元・

小池武次・鈴木孝・

野口貴洋・増岡武宏

高36回10

桑谷信久・川端下徳之・

加藤吉郎・下鳥豊・

若林宏幸・田中正二・

宮入努・田邊賢一・

松本圭一・比護良次

高37回12

荒井康雄・小野寺和彦・

大熊勝雄・小澤秀昭・

秋山竹史・安川清康・

横川高樹・城和夫・

前沢智敏・矢島俊之・

荒木健一・内山建造

高38回7

徳田隆也・柴山巖・

吉本光博・山田史朗・

高木淳・中尾政則・

梶晋介

高39回3

清水伸樹・上原孝治・

矢嶋実

高40回4

日枝広道・重川孝志・

高橋拓朗・丸山義則

高41回13

小掛慎太郎・小林孝安・

小松直人・小林俊明・

梅田昌之・小林和弘・

増田茂・長田祐司・

高瀬知博・井上貴行・

長谷隆仁・福田秀朗・

林慎也

高42回16

花田憲彦・本井利生・

水野哲行・三村淳悟・

田村裕一・田村伸也・

東尾隆之・吉川秀一・

藤原潤一・大澤清・

小川昌己・高山慎・

藤田恵輔・石本健太郎・

齋川俊行・塩家吹雪

高43回17

坂巻健司・萩原孝明・

伊藤正規・内山史雄・

松本祐一・山中二郎・

戸塚太一・服部謙太郎・

上原弘行・中田一郎・

針谷寿紀・吉田永弘・

中村歩希・今井仁・

工藤順一・藤田清志・

内山義治

高44回9

北村彰浩・久保村豊・

山本孝・佐藤裕次・

守部直文・藤田啓・

内野秀和・浅野裕之・

渡辺善之

高45回9

牛込秀敏・赤田正樹・

田口学・青木和久・

築田貴弘・中野隆之・

中山秀一・小林孝幸・

近藤正徳

高46回5

金子隆・鈴木健一・

高木功介・山田洋一・

則松計征

高47回3

香取範充・佐藤良・

加来鉄平

高48回6

山中弘毅・板橋寿和・

稻生雄一郎・中村織雄・

増田健次・芦原康夫

高49回10

川本大輔・堀洋平・

立川嘉久・林誠吾・

安井督・上野光信・

江奈泰二郎・貝塚純人・

中溝健晴・山田元文

高50回6

豊川浩成・竹上大介・

及川勇介・宇田川太・

御園生悟・綱島宗介

## 高51回14

天野秀忠・秋田真孝・  
梶野貴經・西岡新平・  
新井亮輔・中村元氣・  
滝澤一晴・中澤利幸・  
橋爪雄志・山田道夫・  
乙丸貴史・染谷快典・  
古島剛・若西良介

## 高52回14

益戸將吾・高橋智久・  
長谷川智洋・塩畑太一・  
藤本耕平・鈴木常太・  
千田昌宏・坂本泰宏・  
坂田憲和・赤松篤・  
猪越正直・長谷川圭吾・  
馬渡千高・伊田健一郎

## 高53回16

北島康介・吉村和幸・  
今井秀星・藤田豊・  
中井秀昌・福森洋輔・  
奥山雄太・齊藤秀雄・  
長南基・小藤寛之・  
中村旭・日谷充・  
内原嘉昭・丸山大輔・  
深山敬大・佐藤達哉

## 高54回14

栗野耕平・石澤慧・  
高橋祐磨・大森秀昭・  
鶴木学・小泉孝人・  
土橋篤仁・伊藤亮・  
戸澤信太郎・堀江翔一

## 高55回11

和田敏治・小泉信吾・  
清水玄雄・正木健彦・  
香川景陸・内丸剛郎・  
山崎晃一・大河内伸剛・  
本多慶朗・伊藤新・  
川那辺翔・佐藤裕明・  
塚田匡・國安徹・杉田和哉

## 高56回19

白坂健太・高井俊宏・  
冨塚賢太郎・河合修平・  
稲垣雄介・小林遼・  
船渡川哲・菅原一輝・  
常本浩之・小高真樹・  
卯坂潤一郎・江利川堯・  
後藤隆徳・澤山慶博・  
長谷川裕之・福岡卓也・  
細谷孝伸・山本崇史・  
木内健義

## 高57回14

藤巻壮・池田貴生・  
小林敵・藤方洋平・  
鶴岡亮人・吉田峻洋・  
谷口遼・安藤裕哉・  
宮本英明・北森雅雄・  
石村賢・進野裕規・  
畑佑樹・福井遼太

## 高58回25

石上将大・大黒政彦・  
上久保一輝・池田一樹・  
伊田和平・松島和人

## 高59回26

米山俊輔・並木幹夫・  
秋本悠樹・田中義輝・  
西原正浩・木下和俊・  
高橋伊郎・多田邦生・  
吉川直佑・清水大・  
松村浩司・池田泰朗・  
梅田翔太・黒部直樹・  
宮沢祐太・小笠貴嗣・  
黒田健斗・土屋厚人・  
益田晃太

## 高60回49

日下陽平・小泉隼人・  
古賀大智・野中裕太郎・  
水谷大志・山本勝章・  
大野太郎・鈴木啓介・  
福島寛之・山下雄大・  
木甲斐智明・佐藤智哉・  
武井良祐・林輪太郎・  
岩原淳・辻健太郎・  
宇山宗孝・小堀一・  
篠原利典・山口達也・  
長田勝也・竹村聡志・  
村川東・長谷川喜教・  
庄司賀範・吉實大輔

大薬一矢・佐藤明太・  
豊原貴俊・新妻康朗・  
福田修也・宮崎聡樹・  
由利卓哉・渡邊康平・  
稻生謙吾・粕谷尚弘

高  
61  
回  
58

高井航・伊田幸平・  
 加藤明裕・工藤雄太郎・  
 澁江佳樹・長谷部翔・  
 星野愼太郎・安本昌史・  
 大橋正俊・陶山竜作・  
 関根佑貴・松丸大輝・  
 桃井康雅・浅野泰寛・  
 飯田大也・石井洋志・  
 浦公佑・小池康介・  
 佐藤智・鳥居暁・  
 中村聡志・佐野純平・  
 清水宏・藤井翔太郎・  
 井上勇人・小澤駿一郎・  
 清村翔・高知輝・  
 戸澤圭太・正木直哉・  
 山幡琢也・大和久淳・  
 熊谷智大・黒田直生人・  
 佐々木佑輔・虎井祐介・  
 峯岸賢史・山本陸・  
 吉田成輝

高  
62  
回  
60

高橋良平・花村大樹・  
 福田圭祐・山本琢磨・  
 清水崇文・高木智彬・  
 竹本雅純・野本賢・  
 町田修・宮川紘輔・  
 森下弘基・渡辺雄太・  
 安部偉織・内堀誠也・  
 岡野晴行・川野雄平・  
 佐々木優太郎・陣場成行・  
 高泰仁・中村耕大・  
 畑中弘貴・花村駿・  
 大倉智裕・中田匠哉・  
 新見拓馬・藤岡遼・  
 元田圭・与那嶺智・  
 志村暢紀・田中慎也・  
 新田貴明・橋本将一・  
 前波知輝・村田貴輝・  
 柳瀬和也・渡邊貴之・  
 日下知紘・小岩井政宏・  
 朝日達哉・金子修・  
 佐藤純輝・志田龍太郎  
 足立健斗・榎本悠一郎・  
 小泉貴裕・中村吉秀・  
 柳裕介・矢部晋法・  
 安藤雄太・伊藤慶太・  
 伊藤健太・佐賀大凱・  
 林光太・星野良樹・  
 南方宙大・山口智弘・

渡辺学嗣・飯島悠貴・  
 石嶋大裕・一井純・  
 植田耕平・久保翔大・  
 酒井翔生・田中想太・  
 土田直樹・廣田俊輔・  
 山田駿・横尾佳輝・  
 遠藤俊宏・岡本遼・  
 金晟徹・若林司・  
 泉田洋介・衣袋健太・  
 遠藤啓祐・大澤亜希良・  
 佐野修一・寺本寛士・  
 平澤勇輝・平田雅俊・  
 平野伎・岩満祐介・  
 北山翔・田口和昌・  
 豊田雅人・兵頭義章・  
 秋元陽祐・大高正義・  
 川島尚哉・小林祐樹・  
 櫻井佑樹・櫻井雄太郎・  
 福嶋大樹・松浦豪・  
 古川翔一・向後貴史・  
 小菅高弘・周達仁・  
 鈴木雄介・田之上英樹・  
 中沢舜・山田凌輔

※万全を期したつもりですが、万が一、  
 お名前の漏れや誤字、脱字などの間違いが  
 ありましたらご容赦ください。  
 FAXでご一報いただければ幸いです。  
 FAX03-3917-0007

## 訃報

謹んでご冥福をお祈り致します  
同窓会にご連絡のあった方のみ掲載しております

中3回 青柳 志郎	中15回 太田 年三	中19回 高橋 昭彌
中4回 亀甲 勲	中15回 大河原 由雄	中20回 船橋 隆馬
中4回 鈴木 正二	中15回 河原 燦	中20回 百田 稔
中5回 高山 三郎	中15回 金井 格	中22回 永井 道夫
中5回 南川 茂男	中15回 兎玉 孝	中22回 中原 豪彦
中6回 小林 裕一	中15回 さい合邦夫	高4回 川野 浩海
中7回 篠崎 一弥	中15回 吉松 茂弥	高6回 伊藤 洋之助
中7回 樋口 俊平	中16回 比米 忠	高6回 松本 一男
中10回 後藤 恒久	中17回 佐藤 英夫	高6回 前田 明男
中10回 佐藤 崇	中17回 中谷 好文	高6回 吉田 和雄
中10回 福島 光夫	中17回 原昭一郎	高8回 榎本 正夫
中12回 今井田 貢	中17回 保坂 忠夫	高8回 河内 秀夫
中12回 楠本 善一郎	中18回 金子 佐多美	高11回 木村 高明
中12回 前田 晴久	中18回 北村 廣三郎	高12回 埴 和道
中13回 板橋 正二	中18回 北堀 幸雄	高12回 矢部 恭一
中13回 寺門 務	中18回 後藤 良一	高12回 長谷川 修
中13回 永田 三郎	中18回 瀬川 昌男	高20回 江口 最
中14回 多賀 一郎	中18回 山田 卓治	

## 編集後記

- 東日本大震災により、亡くなられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げます。母校でも生徒や先生方約500人が学校で一夜を過ごすことになりましたが、全員無事でした。そういえば、昨年の同窓会定期総会で北原校長から、地震などの危機管理対策にも心を砕き、3日間の“籠城”に耐えられる備えをしている、との報告がありました。
- 今号も楽しい投稿原稿がそろいました。宮本良一さんの「私の本中時代」では、太平洋戦争時の学園生活の一端を知ることができました。混乱期であっても充実していたのでしょう。母校との交流は途絶えていても「何時も本中時代のことは心の片隅にしかも鮮明に残っております

た」と。3万人になんなんとする卒業生の中で海外に雄飛した同窓生の動向も知りたいと思っていましたが、はからずも、カナダの鈴木伸久さんから原稿をいただきました。ありがとうございます。

- 「自分たちで部活を切り盛りしようと悩み抜いたことが、大学でのサークル活動に活かされ」、さらに「それぞれのサークルで中心になって活躍している」と報告してくれた漫画劇画部OBの江川裕二さん。がんばっていますね。それというのも「顧問の先生方に生徒自治という背伸びを許され、」部活の推進に試行錯誤した経験があったから、とのこと。生徒たちを信頼する先生方に敬意を表します。

(Y)



**本郷祭(学園文化祭)を同窓生交流の場に**

— 9月17日(土)、18日(日) —

《同期会やクラス会、OB会などの集合場所にご利用ください》

同窓会展示室開設(当日のプログラムでご案内します)



**同窓会懇親会(サロン)開催**

日時:9月18日14:00~16:00

会場:三菱養和会巣鴨スポーツセンター「レストランバルテール」

会費:1,000円

\*展示教室で利用券を受け取りご参集ください